

引用索引データベースにおける著者所属機関の誤記載の研究

—日本の大学と所在国が「日本」とされた外国の大学の場合—

Miss records research the author's institution in SCI
- In the case of Japanese universities, and foreign universities of recorded Japan -

角田 裕之

Hiroyuki TSUNODA

抄録

引用索引データベースは文献の情報を記録しているが、必ずしもすべて正しくはない。本研究では天文学と材料学の2分野から、各4誌の2005年に掲載された文献、および、その文献を引用した文献を抽出した。これらの文献の国名が日本と記録された16,482件の所属機関を対象とした。機関情報のうち大学名称の誤記を調査し、58件を15の種類に分類した。また、国名の誤記が4件見つかった。誤記の発生段階を著者・出版者、データベース提供者に区別した。発生段階別の傾向が分かった。

Abstract

Although the citation index database to record information in literatures, it is not necessarily everything correctly. In this study, the literatures were extracted from two fields of astronomy and materials science, literatures was published in from 2005 to current. The number of recorded "Japan" in COUNTRY was 16,482. However, they had been recorded in Japanese universities and foreign universities. Miss records of 58 universities were classified into 15 types. Miss records were identified by an author & a publisher and a database company. Miss records were shown characteristic.

キーワード 図書館情報学、計量書誌学、引用分析、

1. 序論

文献を調査するには、媒体そのものを調べる方法とデータベースを検索する方法がある。近年、文献量の増加にともない、網羅的で迅速な収集にはデータベースを用いることが多くなった。文献の書誌情報を検索できるデータベースを文献データベースとよび、引用文献をも検索できるデータベースを引用索引データベースとよぶ。代表的な雑誌の文献・引用索引データベースには、科学技術振興機構のJ Dream II、国立国会図書館の雑誌記事索引、国立国語研究所の日本語研究・日本語教育文献データベースなど、引用索引データベースには国立情報学研究所のCiNii Articles、米国国立医学図書館のPubMed、トムソン・ロイターのWeb of Science、エルゼビア・ジャパンのScopus、グー

グルのGoogle Scholar他、多種多様なデータベースが存在する。

これらのデータベースのなかで、大学の研究を評価する指標に比較的多く用いられるのが、Web of Scienceに収録されているScience Citation Index Expanded (SCI) 等である。Moedら[1]、Van den Bergheら[2]、Noyonsら[3]など、多くの研究者がSCIを大学の研究評価に用いている。正確な結果を得るためには、正確に記録されたデータと厳密な手順で実施された分析が必須である。ところが、分析に用いる文献の情報には揺らぎがあり一意に定まらないことがある。揺らぎ情報を同定識別することを名寄せとよぶが、名寄せされていないデータを用いて分析した結果が正確であると保証されない。

本研究の目的は、大学の名称の異なりを分析し誤記

であれば、その原因を考察する。

2. 方法

2. 1対象

引用索引データベースには、自然科学の学術雑誌を広く範囲に収録したThomson Reuters社のWeb of ScienceのScience Citation Index Expanded (SCI) を用いた。本研究では天文学と材料学の2分野から、各4誌の2005年に掲載された文献、および、その文献を引用した文献を抽出した。これらの文献の国名が日本と記録された16,482件の所属機関を対象とする。

2. 2著者所属機関情報

SCIの文献の著者所属機関の情報は、ORG、DEPT、LAB、SECT、CITY、PROVINCE、STATE、ZIP_CODE、COUNTRYの各フィールドに収められている。機関種が大学であるならば、大学の名称はORG、学部・部署はDEPT、研究所・研究室はLAB、部門はSECT、所在地の情報は市がCITY、地方がPROVINCE、州がSTATE、郵便番号がZIP_CODE、国がCOUNTRYである。

2. 3大学情報

大学名称の典拠には、国連教育科学文化機関((UNESCO)の下に設立された国際大学協会(International Association of Universities)が編纂した世界の高等教育機関データベース(World Higher Education Database: WHED)を用いた。

3. 結果

3. 1名称の誤記

SCIのORGに記録された文字と、オリジナル文献もしくは、出版社のデータベースに記載された著者所属機関情報(部署、機関、所在地、郵便番号、国等で構成されている。以下、機関情報とよぶ。)を照合し、誤記のパターンの識別と原因を検討する。

(1) 単語のつづりの誤り

大学名称に用いられた単語のつづりを誤って記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・Hokkai Gakuen Univ

原文献ⁱの機関情報は、Faculty of Engineering, Hokkai-Gakuen University, Toyohira-ku, Sapporo 062-8605, Japanとある。機関は北海学園大学(Hokkai-Gakuen University)であるが、Gakuenのuが一文字多い。ORGはHokkai Gakuen Univと記録するのが適切である。

・Kogakuin Univ

原文献ⁱⁱの機関情報は、Kogakuin University, 2665-1, Nakano-cho, Hachioji, Tokyo 192-0015, Japanである。機関は工学院大学(Kogakuin University)であるが、Kogakuin にuが一文字多い。ORGはKogakuin Univと記録するのが適切である。

・Osaka Sangyo Univ

原文献ⁱⁱⁱの機関情報は、College of General Education, Osaka Sangyo University, 3-1-1, Nakagaito, Daito, Osaka 574-8530, Japanである。機関は大阪産業大学(Osaka Sangyo University)であるが、Sangyo のnがmに置き換わったSamgyoが記録されている。ORGはOsaka Sangyoと記録するのが適切である。

・Kansai Univ

原文献^{iv}の機関情報は、Department of Chemical, Energy and Environmental Engineering, Kansai University, Suita 564-8680, Japanである。機関は関西大学(Kansai University)であるが、Kansaiの一つ目のaがoに置き換わる。ORGはKansai Univと記録するのが適切である。

・Ibaraki Prefectural Univ Hlth Sci

原文献^vの機関情報は、Ibaraki Prefectural University of Health Sciences, Ami, Ibaraki 300-0394, Japanである。機関は茨城県立医療大学(Ibaraki Prefectural University of Health Sciences)であるが、Ibarakiのaが欠落している。ORGはIbaraki Prefectural Univ Hlth Sciと記録するのが適切である。

・Shophia Univ

原文献^{vi}の機関情報は、Department of Physics, Shophia University, Chiyoda-ku, Tokyo 102-8554, Japanである。機関は上智大学(Sophia University)であるが、Sophiaのhを一文字多い。ORGはSophia Univと記録するのが適切である。

・Tokio Inst Technol

原文献^{vii}の機関情報は、Tokio Institute of Technology, Meguro, Tokio, 152-8551, Japanと記されている。機関は東京工業大学(Tokyo Institute of Technology)であるが、Tokyoのyがiに置き換わる。ORGはTokyo Inst Technolと記録するのが適切である。

・Univ Tokvo

原文献^{viii}の機関情報は、Institute of Engineering Innovation, The University of Tokyo, Tokyo 113-8656, Japanである。機関は東京大学(The University of Tokyo)であるが、Tokyoのyがvに置き換わる。ORGはUniv Tokyoと記録するのが適切である。

(2) 単語の順序の誤り

大学名称に用いられている単語の順序を誤って記録

されたORG、機関情報とその状況を示す。

• Univ Shizuoka

Wiley Online Libraryによれば、文献^{ix}の機関情報は、Department of Analytical Chemistry, School of Pharmaceutical Sciences and COE Program in the 21st Century, University of Shizuoka, Shizuoka, Japanである。機関は静岡大学（Shizuoka University）であるが、Univ とShizuokaの順序が逆である。ORGはShizuoka Univと記録するのが適切である。

• Univ Shizuoka

原文献^xの機関情報は、Department of Chemistry, Shizuoka University, 836 Ohya, Shizuoka, Shizuoka 422-8529, Japanである。機関は静岡大学（Shizuoka University）であるが、Univ とShizuokaの順序が逆である。ORGはShizuoka Univと記録するのが適切である。

• Univ Shizuoka

Wiley Online Libraryによれば、文献^{xi}の機関情報は、School of Pharmaceutical Sciences, University of Shizuoka, 52-1 Yada, Shizuoka 422-8526, Japanである。機関は静岡大学（Shizuoka University）であるが、Univ とShizuokaの順序が逆である。ORGはShizuoka Univと記録するのが適切である。

• Univ Shizuoka

原文献^{xii}の機関情報は、Department of Systems Engineering, Shizuoka University, Hamamatsu, Shizuoka 432-8561, Japanである。機関は静岡大学（Shizuoka University）であるが、Univ とShizuokaの順序が逆である。ORGはShizuoka Univと記録するのが適切である。

• Univ Shizuoka

Wiley Online Libraryによれば、文献^{xiii}の機関情報は、Division of Bio-Analytical Chemistry, School of Pharmaceutical Sciences, University of Shizuoka, 52-1 Yada, Shizuoka 422-8526, Japanである。機関は静岡大学（Shizuoka University）であるが、Univ とShizuokaの順序が逆である。ORGはShizuoka Univと記録するのが適切である。

• Yamanashi Univ

Wiley Online Libraryによれば、文献^{xiv xv}の機関機関情報は、Clean Energy Research Center, University of Yamanashi, 4 Takeda, Kofu, Yamanashi 4008510, Japanと、Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Engineering, University of Yamanashi, 4-4-37 Takeda, Kofu, 400-8511 (Japan) である。機関は山梨大学（University of Yamanashi）であるが、Univ とYamanashiの順序が逆である。ORGはUniv Yamanashiと記録するのが適切である。

(3) 単語の欠落

大学名称に用いられている単語が欠落したまま記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

• Adv Inst Sci & Technol

J-STAGEにあるThe Chemical Society of Japanによれば、文献^{xvi}の機関情報は、Advanced Institute of Science and Technology (JAIST) である。機関は北陸先端科学技術大学院大学（Japan Advanced Institute of Science and Technology）があるが、Japanが欠落している。ORGはJapan Adv Inst Sci & Technolと記録するのが適切である。

• Inst Technol

原文献^{xvii}の機関情報は、Department of Electronic Chemistry, Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering, Tokyo and Institute of Technology, Nagatsuta, Midori-ku, Yokohama 226-8502, Japanである。機関は東京工業大学（Tokyo Institute of Technology）であるが、TokyoとInstituteの間にandが挿入され、前後が改行されている。同文献は単著で所属機関が1機関にも関わらず、SCIでは2機関で登録されている。Department of Electronic Chemistry, Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering, Tokyoまでをひとつの機関、Institute of Technology, Nagatsuta, Midori-ku, Yokohama 226-8502, Japanまでをひとつの機関に判断したためである。ORGはTokyo Inst Technolと記録するのが適切である。

• Tokyo Tech

原文献^{xviii xix}の機関情報は、Tokyo Tech, 2-12-1 O-okayama, Tokyo 152-8551, Japanおよび、Department of Physics, Tokyo Tech, 2-12-1 Ookayama, Meguro-ku, Tokyo 152-8551である。機関は東京工業大学（Tokyo Institute of Technology）であるが、Inst が欠落している。ORGはTokyo Inst Technolと記録するのが適切である。

• Tokyo Metropolitan Coll Aeronaut

原文献^{xx xxi}の機関情報は、Tokyo Metropolitan College of Aeronautics, Tokyo 116-8523, Japanである。機関は東京都立航空工業高専（現在は東京都立産業技術高等専門学校に統合）（Tokyo Metropolitan College of Aeronautical Engineering）であるが、Engnが欠落している。ORGはTokyo Metropolitan Coll Aeronaut Engnと記録するのが適切である。

• Yamanashi Univ

原文献^{xxii}の機関情報は、Faculty of Management Information, Yamanashi Gakuin University, Kofu, Yamanashi 400-8575, Japanである。機関は山梨大学（University of Yamanashi）の誤記のように見えるが、

所在地と郵便番号から山梨学院大学 (Yamanashi Gakuin University) であることが分かる。単語が欠落したことにより、別の大学ともとれる表記になった。ORGはYamanashi Gakuin Univと記録するのが適切である。

(4) 単語の付加

大学名称に不要な単語が付加して記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・ Kinki Univ Kyushu

ACS Publications Home Pageによれば、文献^{xxiii}の機関情報は、Department of Biological and Environmental Chemistry, Kinki University-Kyushu, 11-6 Kayanomori, Iizuka 820-8555, Japanである。機関は近畿大学 (Kinki University) であるが、産業理工学部生物環境化学科の所在地を示すKyushu (九州) が文献に表記されている。ORGはKinki Univ と記録するのが適切である。

・ Hiroshima Univ Higashihiroshima

原文献^{xxiv}の機関情報は、Graduate School of Science, Hiroshima University Higashi-Hiroshima 739-5826, Japanである。機関は広島大学 (Hiroshima University) であるが、所在地の東広島 (Higashi-hiroshima) のハイフオンを削除し一単語が加えられたHigashihiroshimaが記録されている。ORGはHiroshima Univと記録するのが適切である。

・ Kansai Univ Suita

Wiley Online Libraryによれば、文献^{xxv}の機関情報は、Department of Chemistry and Materials Engineering Faculty of Chemistry, Materials and Bioengineering, Kansai University Suita, Osaka 564-8680 (Japan) である。機関は関西大学 (Kansai University) であるが、所在地のSuita (吹田) を名称に誤って付記している。ORGはKansai Univと記録するのが適切である。

・ Kyoto Univ A1 326

American Physical Society Sitesによれば、文献^{xxvi}の機関情報は、Department of Electronic Science and Engineering, Kyoto University A1-326, Katsura, Nishikyo, Kyoto 615-8510, Japanである。機関は京都大学 (Kyoto University) であるが、直後のA1 326 (京都大学桂キャンパス電子材料物性研究室のA1棟326号室) が名称に含め記録されている。ORGはKyoto Univ と記録するのが適切である。

・ Kyoto Univ Katsura

Wiley Online Libraryによれば、文献^{xxvii} ^{xxviii}の機関情報は、Department of Material Chemistry, Graduate School of Engineering, Kyoto University, Kyoto University Katsura, Nishikyo-ku, Kyoto 615-8510

(Japan) である。機関は京都大学 (Kyoto University) であるが、キャンパスの名称である Katsura (桂) が名称に含め記録されている。ORGはKyoto Univと記録するのが適切である。

・ Kyushu Univ 87

原文献^{xxix}の機関情報は、Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University 87, Kasuga 816-8580, Japanである。機関は九州大学応用力学研究所 (RIAM, Kyushu University) なので、他に記録された例にならえば、ORGがKyushu Univで、DEPTにRIAMを記す方が適切である。ORGはKyushu Univと記録するのが適切である。

・ Toyohashi Univ Technol Elect & Elect Engn

ElsevierのScience Directによれば、文献^{xxx}の機関情報は、Toyohashi University of Technology, 1-1 Hibarigaoka, Tempaku, Toyohashi 441-8580, Japanである。機関は豊橋技術科学大学 (Toyohashi University of Technology) であるが、Elect & Elect Engn (電気・電子情報工学課程・専攻) がORGに付加された理由は不明である。DEPTに所在地情報の天伯 (Tempaku) が登録されているが、Elect & Elect Engn (電気・電子情報工学課程・専攻) を登録するのが適切である。ORGはToyohashi Univ Technolと記録するのが適切である。

(5) 異なる単語

大学名称に異なる単語が付加して記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・ Grad Univ Adv Study

原文献^{xxxi}の機関情報は、National Astronomical Observatory and Graduate University for Advanced Study, 2-21-1 Osawa, Mitaka, Tokyo 181-8588, Japanである。機関は国立天文台にある総合研究大学院大学 (The Graduate University for Advanced Studies) であるが、文献にStudyが記録されたためである。ORGはGrad Univ Adv Studiesと記録するのが適切である。

・ Grad Univ Adv Study

原文献^{xxxii}の機関情報は、Mizusawa VERA observatory, National Astronomical observatory of Japan, Graduate University for Advanced Study, Mitaka, Tokyo 181-8588である。機関は国立天文台にある総合研究大学院大学 (The Graduate University for Advanced Studies) であるが、文献にStudyと示されている。ORGはGrad Univ Adv Studiesと記録するのが適切である。

・ Grad Univ Adv Sci

原文献^{xxxiii}の機関情報は、Graduate University of Advanced Science, 2-21-1 Osawa, Mitaka, Tokyo 181-

8588, Japanである。機関は総合研究大学院大学 (The Graduate University for Advanced Studies) であるが、文献ではforがof、StudiesがScienceに置き換わっている。そのため、ORGの表記にStudiesとすべきところが、Scienceの短縮形のSciと表記された。ORGはGrad Univ Adv Studiesと記録するのが適切である。

・ Nippon Med Coll

原文献^{xxxiv}の機関情報は、Nippon Medical School, 2-297-2 Kosugicho, Nakahara, Kawasaki, Kanagawa 211-0063 Japanである。機関は日本医科大学 (Nippon Medical School) であるが、SchをCollに置き換えて記されている。ORGはNippon Med Schと記録するのが適切である。

(6) 単語の合成の誤り

大学名称に付与されているハイフオンを削除したとき、間に空白を挿入しなかったため、2単語が1単語で記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・ HokkaiGakuen Univ

原文献^{xxxv}の機関情報は、Faculty of Engineering, Hokkai-Gakuen University, Toyohira-ku, Sapporo 062-8605, Japan. である。機関は北海学園大学 (Hokkai-Gakuen University) であるが、ハイフオンを削除しスペースを付けず一単語にしたHokkaiGakuenを記録している。ORGはHokkai Gakuen Univと記録するのが適切である。

(7) 部署の記録

大学名称に大学院や学部などの部署が記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・ Grad Sch Engn

ElsevierのScience Directによれば、文献^{xxxvi}の機関情報は、Department of Environmental Technology and Urban Planning, Graduate School of Engineering, Gokiso-cho, Showa-ku, Nagoya, 466-8555, Japanと、Department of Frontier Materials, Graduate School of Engineering, Gokiso-cho, Showa-ku, Nagoya, 466-8555, Japanであるが、大学の名称が欠落している。機関は名古屋工業大学大学院 (Graduate School of Engineering, Nagoya Institute of Technology) であることが、所在地から判明する。他に記載された例にならえば、ORGにはNagoya Inst Technolを、DEPTにはGrad Sch Engnを記録するのが統一である。

・ Dept Chem Engn

ElsevierのScience Directによれば、文献^{xxxvii}の機関情報は、Department of Chemical Engineering, Iwate University, Iwate 020-8551, Japanである。機関は岩手大学 (Iwate University) であるが、応用化学科

(Department of Chemical Engineering) の略語のDept Chem Engnを記録している。他に記載された例にならえば、ORGにはIwate Univ を、DEPTにはDept Chem Engn を記録するのが統一である。

・ Grad Sch Sc

原文献^{xxxviii}の機関情報は、Department of Earth and Space Science, Graduate School of Science, 1-1 Machikaneyama-cho, Toyonaka, Osaka 560-0043, Japanであり、大阪大学の表記はない。機関は大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻 (The Department of Earth and Space Science, Graduate School of Science of Osaka University) であると、所在地と部署から分かる。他に記載された例にならえば、ORGにはOsaka Univ を、DEPTにはGrad Sch Sciを記録するのが統一である。

・ Dept Phys

The Smithsonian/NASA Astrophysics Data Systemによれば、文献^{xxxix}の著者情報は判明するが、機関情報は確認できなかった。しかし、SCIのZIP が3388570から埼玉大学 (Saitama University) であることが分かる。他に記載された例にならえば、ORGにはSaitama Univ を、DEPTにはDept Physを記録するのが統一である。

・ Waseda Res Inst Sci & Engn

原文献^{xl}の機関情報は、Waseda Research Institute for Science and Engineering, Okubo 3-4-1, Shinjuku, Tokyo 169-8555, Japanである。機関は早稲田大学理工学術院総合研究所 (Waseda Research Institute for Science and Engineering) である。他に記載された例にならえば、ORGにはWaseda Univ を、DEPTにはWaseda Res Inst Sci & Engn を記録するのが統一である。

(8) 所在地の記録

大学名称に所在地が記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・ Sakyo Ku

RSC PublishingのJournal Homeによれば、文献^{xli}の機関情報は、Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japanであり、機関の名称が記載されていないが、所在地と郵便番号から京都大学であることが分かる。Sakyo Ku (左京区) は京都大学の所在地の情報であり、これを名称とした誤りである。ORGはKyoto Univと記録するのが適切である。

・ 2-12-1 Ohokayama

World ScientificのHomeによれば、文献^{xlii}の機関情報は、2-12-1, Ohokayama, Meguro, Tokyo 152-8551, Japanである。機関は所在地と郵便番号から東京工業大学

(Tokyo Institute of Technology) と分かるが、機関の名称が欠落している。2-12-1 Ohokayama は東京工業大学の所在地の情報であるが、これを機関の名称とした誤りである。ORGはTokyo Inst Technolと記録するのが適切である。

・2-1-1 Katahira Aobaku

RSC PublishingのJournal Homeによれば、文献^{xiii}機関情報は、980-8577, 2-1-1 Katahira Aobaku, Sendai, Japanであり、機関の名称が記載されていないが、所在地と郵便暗号から東北大学 (Tohoku University) とわかる。ORGはTohoku Univと記録するのが適切である。

・Aoba 6-6-11-606, Aoba Ku

原文献^{xiv}の機関情報は、Department of Biomolecular Engineering, Graduate School of Engineering, Tohoku University, Sendai 980-8579, Japanである。機関は東北大学 (Tohoku University) である。ところが、別に連絡用アドレスとしてAoba 6-6-11-606, Aoba-ku, Sendai 980-8579, Japanが記されている。名称として連絡用アドレスがORGに記された。SCIには同文献の機関名称として、既にTohoku Univが記されているので、Aoba 6-6-11-606, Aoba Kuは不要である。

(9) 略称の混在

大学名称と略称が混在して記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・Grad Univ Adv Studies SOKENDAI

原文献^{xv}の機関情報は、School of Mathematical and Physical Science, The Graduate University for Advanced Studies (SOKENDAI), Hayama, Kanagawa 240-0193, Japan.他、である。機関は総合研究大学院大学 (The Graduate University for Advanced Studies) であるが、略称の"ソウケンダイ"の括弧が取られたため、機関名が重複した記録となる。記載された他の例にならば、ORGはGrad Univ Adv Studiesと記録するのが適切である。

・Grad Univ Adv Studies Sokendai

EDP Scienceによれば、文献^{xvi}の機関情報は、Department of Astronomical Science, School of Physical Science, The Graduate University for Advanced Studies (Sokendai), 2-21-1 Osawa, Mitaka, Tokyo 181-8588, Japan他である。機関は総合研究大学院大学 (The Graduate University for Advanced Studies) であるが、略称の"ソウケンダイ"の括弧が取られたため、機関名が重複した記録となる。記載された他の例にならば、ORGはGrad Univ Adv Studiesと記録するのが適切である。

・Tokyo Univ Agr & Technol TAT

RSC PublishingのJournal Homeによれば、文献^{xvii}の機関情報は、Department of Applied Chemistry, Tokyo University of Agriculture and Technology (TAT), 2-24-16, Nakacho, Koganei, Tokyo 184-8588, Japanである。機関は東京農工大学 (Tokyo University of Agriculture and Technology) であるが、略語の括弧が取られたため、機関名が重複した記録となる。ORGはTokyo Univ Agr & Technolと記録するのが適切である。

(10) 単語の欠落と略語の混在

大学名称に用いられている単語が欠落し、かつ略称が混在して記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・Univ Adv Studies Sokendai

原文献^{xviii}の機関情報は、Department of Astronomical Science, Graduate University for Advanced Studies (Sokendai), Shonan Village, Hayama, Kanagawa 240-0193, Japanである。機関は総合研究大学院大学 (The Graduate University for Advanced Studies) であるが、データベースの登録にGradが欠落した。ORGはGrad Univ Adv Studiesと記録するのが適切である。

(11) 単語の付加と略語の混在

大学名称に異なる単語が付加され、かつ、略称が混在して記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・Grad Univ Adv Study SOKENDAI

原文献^{xix}の機関情報は、Division of Theoretical Astronomy, National Astronomical Observatory of Japan, 2-21-1 Osawa, Mitaka-shi, Tokyo 181-8588; and School of Physical Sciences, Graduate University for Advanced Study (SOKENDAI) である。機関は国立天文台にある総合研究大学院大学 (The Graduate University for Advanced Studies) であるが、文献にStudyと記録し、略語のSOKENDAIも記録したためである。ORGは、Grad Univ Adv Studiesと記録するのが適切である。

(12) 単語のつづりに誤りと単語の付加

大学名称に用いられた単語のつづりの誤り、かつ、異なる単語が付加されたORG、機関情報とその状況を示す。

・Hioroshima Univ Higashi Hiroshima

The Smithsonian/NASA Astrophysics Data Systemによれば、文献の著者著者情報は判明するが、機関情報は確認できなかった。所在地から機関は広島大学 (Hiroshima University) であるが、Hiroshima にoが

一文字多いHioroshimaを記録し、かつ、所在地もしくはキャンパス名であるHigashi Hiroshima（東広島）を誤って付記している。ORGはHiroshima Univと記録するのが適切である。

(13) 略称の誤り

大学名称の略語を誤って記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・U Tokyo

原文献ⁱⁱの機関情報は、IPMU, U-Tokyo 5-1-5 Kashiwanoha, Kashiwa, Chiba 277-8568, Japanである。機関は東京大学Kavli IPMU-カブリ数物連携宇宙研究機構（Kavli Institute for the Physics and Mathematics of the Universe, The University of Tokyo）であることがわかり、nivを欠落し、U-Tokyoと記したためである。ORGはUniv Tokyo、DEPTはInst Phys & Math Universeと記録するのが適切である。

(14) 旧名称の使用

大学名称の新名称ではなく、旧名称を記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・Sci Univ Tokyo (9件)

東京理科大学の現在の英語表記は、Tokyo University of Scienceであり、ORGはTokyo Univ Sciである。ところが、2000年までの英語表記はScience University of Tokyoであったため、現在も旧名称と新名称が混在している。ここでは、2005年以降に刊行した文献を対象にしているためORGは、Tokyo Univ Sciと記録するのが適切である。

(15) 日本語読みを英語に置き換え

大学名称を日本語よみでそのまま記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・Osaka Univ Educ

原文献ⁱⁱⁱの機関情報は、School of Chemistry, Osaka University of Education, Asahigaoka 4-698-1, Kashiwara-shi, Osaka 582, Japanである。機関は大阪教育大学（Osaka Kyoiku University）であるが、KyoikuをEducationに英語に、語順を英語にしたためである。ORGは、Osaka Kyoiku Univと記録するのが適切である。

3. 2国名の誤記

日本以外の大学の国名を日本としたORG、機関情報とその状況を示す。

・Linkoping Univ

ACS Publicationsによれば、文献ⁱⁱⁱⁱの機関情報が、Biomolecular and Organic Electronics, IFM,

Linköpings University, SE-581 83 Linköping, Sweden 若しくは、Institute for Materials Chemistry and Engineering, Kyushu University, 6-1 Kasuga Koen, Kasuga, Fukuoka 816-8580, Japanである。

COUNTRYがJapan、CITYがFukuokaならば九州大学（Kyushu University）である。逆に、Linköping UniversityならCOUNTRYはSwedenとすべきであり大学と国・都市が交差している。COUNTRYがJapanならば、ORGはKyushu Univと記録するのが適切である。

・Natl Formosa Univ

ORGの正しいが、COUNTRYがTaiwanである。COUNTRYがJapanとあるが、ElsevierのScience Directによれば、文献^{iv}の機関情報はInstitute of Mechanical and Electromechanical Engineering, National Formosa University, Yunlin 632, Taiwanである。よって、国は台湾（Taiwan）とすべきである。

・Natl Taiwan Sci & Technol

ACS Publicationsによれば、文献^vの機関情報は、Department of Chemical Engineering, National Taiwan University of Science and Technology, Taipei, 106 Taiwanである。COUNTRYにJapan、CITYにTokyoとあるが、臺灣科技大學（National Taiwan University of Science and Technology）である。国が台湾、都市が台北なので、ORGにはNatl Taiwan Sci & Technolを、COUNTRYにはTaiwanを、CITYにはTaipeiを記録するのが適切である。

・St Cloud State Univ

原文献^{vi}の機関情報は、Business Computer Research Laboratory, St. Cloud State University, 2nd Floor, General Office Area, BB-252, 720 Fourth Avenue South, St Cloud, MN 56301-4498である。機関はセントクラウド州立大学（St. Cloud State University）であるので、国、州、都市が異なる。ORGはSt Cloud State Univのまま、COUNTRYはJapanからUSAに、STATEは空白からMNに、CITYはOsakaからSt Cloudに変更するのが適切である。

3. 3表記の混在

大学名称に略語と頭字語が混在して記録されたORG、機関情報とその状況を示す。

・Japan Adv Inst Sci & Technol とJAIST

北陸先端科学技術大学院大学は、英語略語のJapan Adv Inst Sci & Technolもしくは、英語頭字語のJAISTをORGに記録している。どちらも誤りではないが、統一されていない。

4. 考察

著者である研究者が所属する機関が大学であるとき、

典拠情報と異なる内容がデータベースに記録された原因について考察する。大学の名称の誤記は、おおむね、情報が生成される順に、3つの段階で発生する。

- ①著者：多様な表記で著者が文献を執筆する段階
- ②出版者：文献を受理した学会などが雑誌に編集・掲載する段階
- ③データベース提供機関：雑誌に掲載された文献を提供機関がデータベースに記録する段階

①を確認するには、出版前の原稿、②を確認するには、電子ジャーナルを含め刊行された雑誌そのもの、および、出版者が発信するウェブサイトの情報、③を確認するには、本研究で用いたSCIのORGに記録された情報である。

まず、③から遡り、誤記の発生段階を分析する。②で誤記された内容は、③において修正されない限り、データベースには誤記がそのまま記録される。②の正誤の判断を③がすることは、世界の研究機関の名称に関して精通していることが必要となり、困難である。よって、誤記の内容であっても、②と③が一致したときは、③の誤記とは見なさない。①の誤記を確認することは、出版社前の原稿を確認できないので困難である。ここでは、3. 1名称の誤記 (1) から (15) について、②と③についてのみ、識別を試みる。

4. 1著者・出版者の段階

著者が文献を執筆した段階、若しくは、出版者が雑誌に編集・掲載した段階と考えられる41件を示す。

表1 著者・出版者の段階

正規大学名称	②	③
(1) Hokkai-Gakuen University	Hokkai-Gakuen University	Hokkai Gakuen Univ
(1) Kogakuin University	Kougakuin University	Kougakuin Univ
(1) Sophia University	Shophia University	Shophia Univ
(1) Tokyo Institute of Technology	Tokio Institute of Technology	Tokio Inst Technol
(2) Shizuoka University	University of Shizuoka	Univ Shizuoka
(2) Shizuoka University	University of Shizuoka	Univ Shizuoka
(2) Shizuoka University	University of Shizuoka	Univ Shizuoka
(2) Shizuoka University	University of Shizuoka	Univ Shizuoka
(2) Shizuoka University	University of Shizuoka	Univ Shizuoka
(2) Shizuoka University	University of Shizuoka	Univ Shizuoka
(3) Japan Advanced Institute of Science and Technology	**** Advanced Institute of Science and Technology	**** Adv Inst Sci & Technol
(3) Tokyo Institute of Technology	Tokyo and Institute of Technology	**** Inst Technol
(3) Tokyo Institute of Technology	Tokyo **** Tech	Tokyo **** Tech
(3) Tokyo Metropolitan College of Aeronautical Engineering	Tokyo Metropolitan College of Aeronautics *****	Tokyo Metropolitan Coll Aeronaut ***

(4) Kinki University	Kinki University-Kyushu	Kinki Univ Kyushu
(5) The Graduate University for Advanced Studies	Graduate University for Advanced Study	Grad Univ Adv Study
(5) The Graduate University for Advanced Studies	Graduate University for Advanced Study	Grad Univ Adv Study
(5) The Graduate University for Advanced Studies	Graduate University of Advanced Science	Grad Univ Adv Sci
(7) Nagoya Institute of Technology	Graduate School of Engineering	Grad Sch Engr
(7) Osaka University	Graduate School of Science	Grad Sch Sc
(7) Waseda University	Waseda Research Institute for Science and Engineering	Waseda Res Inst Sci & Engr
(8) Kyoto University	無	Sakyo Ku
(8) Tokyo Institute of Technology	無	2-12-1 Ohokayama
(8) Tohoku University	無	2-1-1 Katahira Aobaku
(8) Tohoku University	無	Aoba 6-6-11-606,Aoba Ku
(9) The Graduate University for Advanced Studies	The Graduate University for Advanced Studies (SOKENDAI)	Grad Univ Adv Studies SOKENDAI
(9) The Graduate University for Advanced Studies	The Graduate University for Advanced Studies (Sokendai)	Grad Univ Adv Studies Sokendai
(9) Tokyo University of Agriculture and Technology	Tokyo University of Agriculture and Technology (TAT)	Tokyo Univ Agr & Technol TAT
(10) The Graduate University for Advanced Studies	Graduate University for Advanced Studies (Sokendai)	Univ Adv Studies Sokendai
(11) The Graduate University for Advanced Studies	Graduate University of Advanced Study (SOKENDAI)	Grad Univ Adv Study SOKENDAI
(13) The University of Tokyo	U-Tokyo	U Tokyo
(14) Tokyo University of Science	Science University of Tokyo	Sci Univ Tokyo (9件)
(15) Osaka Kyoiku University	Osaka University of Education	Osaka Univ Educ

[ゴシックが誤記箇所、無：記載なし、*：欠落語]

4. 2著者・出版者の段階

データベース提供機関が記録した段階と考えられる15件文献を示す。

表2 データベース提供機関の段階

正規大学名称	②	③
(1) Osaka Sangyo University	Osaka Sangyo University	Osaka Sangyo Univ
(1) Kansai Universit	Kansai University	Konsai Univ

(1)	Ibaraki Prefectural University of Health Sciences	Ibaraki Prefectural University of Health Sciences	Ibaraki Prefectural Univ Hlth Sci
(1)	The University of Tokyo	The University of Tokyo	Univ Tokyo
(2)	University of Yamanashi	University of Yamanashi,	Yamanashi Univ
(3)	Yamanashi Gakuin University	Yamanashi Gakuin University	Yamanashi ***** Univ
(4)	Hiroshima University	Hiroshima University	Hiroshima Univ Higashihiroshima
(4)	Kansai University	Kansai University	Kansai Univ Suita
(4)	Kyoto University	Kyoto University	Kyoto Univ A1 326
(4)	Kyoto University	Kyoto University	Kyoto Univ Katsura
(4)	Kyushu University	Kyushu University	Kyushu Univ 87
(4)	Toyohashi University of Technology	Toyohashi University of Technology	Toyohashi Univ Technol Elect & Elect Engn
(5)	Nippon Medical School	Nippon Medical School	Nippon Med Coll
(6)	Hokkai-Gakuen University	Hokkai-Gakuen University	Hokkai*Gakuen Univ
(7)	Iwate University	Iwate University	Dept Chem Engn

[ゴシックが誤記個所、 *：欠落語]

4. 3未確認

原文献をウェブで確認できないため、段階を判断できない2件を示す。

表3 段階不明

正規大学名称	②	③
(7) Saitama University	未確認	Dept Phys
(12) Hiroshima University	未確認	Hioroshima Univ Higashi Hiroshima

[ゴシックが誤記個所、未確認:機関情報未確認]

4. 4段階別誤記比率

著者・出版者、データベース提供者の誤記の比率を示す。

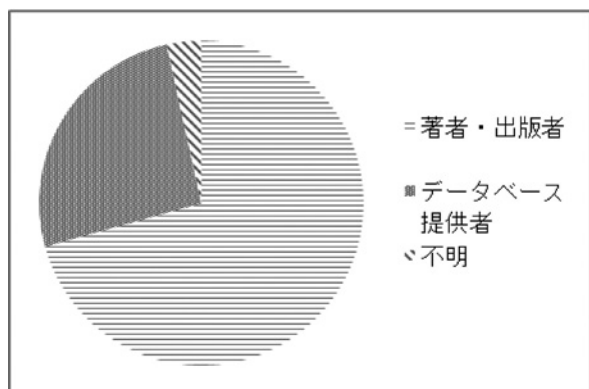


図1 段階別誤記発生比率

誤記の71%は著者・出版者の段階で発生し、26%がデータベース提供者の段階で発生した。著者・出版者の誤記は、誤記のままデータベース提供者で記録されていた。

4. 5原因別誤記頻度

誤記が発生した段階別に件数を比較する。

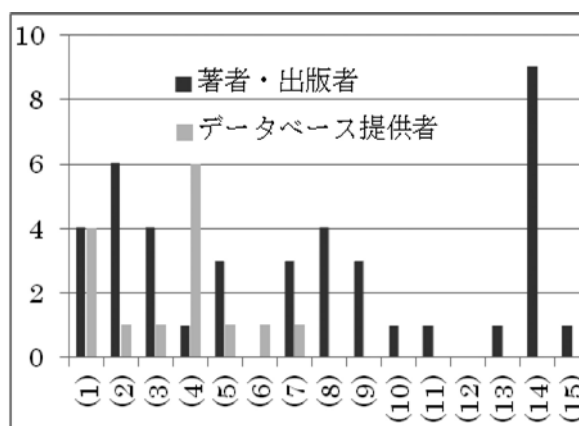


図2 原因別誤記発生の頻度

著者・出版者の誤記が最も多いのは、(14)の旧名称の表記である。名称を変更して5年が経過しても、旧名称を表記する研究者が多い。新名称が研究者に浸透するにはかなりの歳月が必要であることが分かる。次に多いのは(2)語順の誤りである。一般的に、日本語と英語では語順が変わる。しかし、日本語順の英語表記であることが一因である。逆に、データベース提供者の誤記が最も多いのは、(4)単語の付加である。機関名称の直後にスペースを挟み、住所・部署が表記されることが一因である。両者とも多いのは、(1)つづりの誤りである。多くは日本語の固有名詞につづりの誤りである。著者のつづりの誤りは、日本語の英語表記で母音の直後のuを省略せずに表記することや英単語のスペルミスが一因である。海外の出版者とデータベース提供者では、日本語に精通していないことが多く、つづりの誤りに気がつかないことが一因である。

5. 結論

本研究では、大学名称の誤記が58件、国名の誤記入が4件について原因を考察した。国名が日本である文献が16,482件なので、誤記率は0.35%、0.2%と極めて少ないが零ではない。文献をデータベースで検索したとき、誤記であると探せないことも考えられる。今回は国名が日本である文献を対象にしたので、海外の大学が見つかったが、逆に、国名が日本以外のなかに、日本の大学が存在することも考えられる。

日本の固有名詞は海外の出版者やデータベース提供者にとっては、慣れない単語であることが、大きな原因であろう。各段階による誤記の原因別の傾向の詳細が分かった。これらの傾向を踏まえ、文献の情報をデータベースに記録する際は、誤記を防止する対策の一助になれば、幸甚である。

謝辞

本研究は平成21年から平成23年科学研究費補助金基盤研究(C)「大学研究影響度指標の開発」(課題番号:21500243)の助成を受けた研究成果である。研究費を助成された日本学術振興会に感謝する。

参考文献

- [1] Moed, H. F., Burger, W. J. M., Frankfort, J. G., van Raan, A. F. J., The use of bibliometric data for the measurement of university research performance, *Research Policy*, Vol.14, No.3, p.131-149, 1985
- [2] Van den Berghe, H., Houben, J. A., de Bruin, R. E., Moed, H. F., Kint, A., Luwel, M., Spruyt, E. H. J., *Bibliometric Indicators of University Research Performance in Flanders*, *Journal of the American Society for Information Science*, Vol.49, No.1, p.59-67, 1998
- [3] Noyons, E. C. M., Moed, H. F., van Raan, A. F. J., *Integrating research performance analysis and science mapping*, *Scientometrics*, Vol.46, No.3, p.591-604, 1999

付録 文献の情報

著者所属機関に誤記がある原文献がウェブで確認できればその情報、確認できなければ学会や出版社等がウェブで示す情報から、雑誌名、巻号数、ページ、年、タイトル、著者、所属機関を示す。著者と所属機関の関係が著者名の直後に付した[]で番号と、機関名の先頭に付した[]で番号の対応するように修正し、誤記の機関にアンダーラインを引いた。

ⁱ *Astronomy & Astrophysics*, Volume 474, pages 15-22, 2007

Accretion vs colliding wind models for the gamma-ray binary LS I +61 303: an assessment

G. E. Romero[1],[2]*, A.T. Okazaki[3], M. Orellana[2]** and S.P. Owocki[4],

[1] Facultad de Ciencias Astronómicas y Geofísicas, Universidad Nacional de La Plata, Paseo del Bosque, 1900 La Plata, Argentina

[2] Instituto Argentino de Radioastronomía, C.C.5, (1894) Villa Elisa, Buenos Aires, Argentina

[3] Faculty of Engineering, Hokkai-Gakuen University, Toyohira-ku, Sapporo 062-8605, Japan

[4] Bartol Research Institute, University of Delaware, Newark, DE 19716, USA

ⁱⁱ *Publications of the Astronomical Society of Japan*, Volume 59, pages S209-S214, 2007

Discovery of a possible X-ray counterpart to HESS J1804 – 216

Aya Bamba[1], Katsuji Koyama[2], Junko S. Hiraga[1], John P. Hughes[3], Takayoshi Kohmura[4], Motohide Kokubun[5], Yoshitomo Maeda[6], Hironori Matsumoto[2], Atsushi Senda[1], Tadayuki Takahashi[6], Yohko Tsuboi[7], Shigeo Yamauchi[8], Takayuki Yuasa[5]

[1] RIKEN, cosmic radiation group, 2-1, Hirosawa, Wako-shi, Saitama, Japan

bamba@crab.riken.jp

[2] Department of Physics, Graduate School of Science, Kyoto University, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japan

[3] Department of Physics and Astronomy, Rutgers University, 136 Frelinghuysen Road, Piscataway, NJ 08854-8019, USA

[4] Kougakuin University, 2665-1, Nakano-cho, Hachioji, Tokyo 192-0015, Japan

[5] Department of Physics, Graduate School of Science, University of Tokyo, Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan

[6] Department of High Energy Astrophysics, Institute of Space and Astronautical Science (ISAS), Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA), 3-1-1 Yoshinodai, Sagami-hara, Kanagawa 229-8510, Japan

[7] Department of Physics, Faculty of Science and Engineering, Chuo University, 1-13-27 Kasuga, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8551, Japan

[8] Faculty of Humanities and Social Sciences, Iwate University, 3-18-34 Ueda, Morioka, Iwate 020-8550, Japan

ⁱⁱⁱ *Monthly Notices of the Royal Astronomical Society*, Volume 370, pages 380-398, 2006

Effects of dust scattering albedo and 2175 Å bump on ultraviolet colours of normal disc galaxies

Akio K. Inoue[1],[2], Veronique Buat[2], Denis Burgarella[2], Pasquale Panuzzo[3], Tsutomu T. Takeuchi[2], and Jorge Iglesias-Páramo[4]

[1] College of General Education, Osaka Sangyo University, 3-1-1, Nakagaito, Daito, Osaka 574-8530, Japan

- [2] Laboratoire d' Astrophysique de Marseille, Traverse du Siphon, BP 8, 13376 Marseille, CEDEX 12, France
- [3] INAF Padova, Vicolo dell' Osservatorio 5, I-35122 Padova, Italy
- [4] Instituto de Astrofísica de Andalucía (CSIC) , 18008 Granada, Spain
- ^{iv} Journal of Photochemistry and Photobiology A: Chemistry, Volume 205, pages 51-56, 2009
Effects of poly-N-isopropylacrylamide on fluorescence properties of CdS/Cd (OH)₂ nanoparticles in water (Post-Print version)
SHIRAIISHI Yasuhiro[1], ADACHI Kenichi[1], TANAKA Shunsuke[2], HIRAI Takayuki[1]
[1] Research Center for Solar Energy Chemistry, and Division of Chemical Engineering, Graduate School of Engineering Science, Osaka University, Toyonaka 560-8531, Japan
[2] Department of Chemical, Energy and Environmental Engineering, Kansai University, Suita 564-8680, Japan
- ^v The Astrophysical Journal, Volume 668, pages 968-973, 2007
CANGAROO-III SEARCH FOR GAMMA RAYS FROM CENTAURUS A AND THE ω CENTAURI REGION
S. Kabuki[1] R. Enomoto[2] G. V. Bicknell[3] R. W. Clay[4] P. G. Edwards[5] S. Gunji[6] S. Hara[7] T. Hattori[8] S. Hayashi[9] Y. Higashi[1] R. Inoue[8] C. Itoh[7] F. Kajino[9] H. Katagiri[10] A. Kawachi[8] S. Kawasaki[2] T. Kifune[2] R. Kiuchi[2] K. Konno[6] H. Kubo[1] J. Kushida[8] Y. Matsubara[11] T. Mizukami[1] R. Mizuniwa[8] M. Mori[2] H. Muraishi[12] T. Naito[13] T. Nakamori[1] D. Nishida[1] K. Nishijima[8] M. Ohishi[2] Y. Sakamoto[8] V. Stamatescu[4] S. Suzuki[14] T. Suzuki[14] D. L. Swaby[4] T. Tanimori[1] G. Thornton[4] F. Tokanai[6] K. Tsuchiya[1] S. Watanabe[1] Y. Yamada[9] M. Yamazaki[9] S. Yanagita[14] T. Yoshida[14] T. Yoshikoshi[2] M. Yuasa[2] Y. Yukawa[2]
[1] Department of Physics, Kyoto University, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japan
[2] Institute for Cosmic Ray Research, University of Tokyo, Kashiwa, Chiba 277-8582, Japan
[3] Research School of Astronomy and Astrophysics, Australian National University, ACT 2611, Australia
[4] School of Chemistry and Physics, University of Adelaide, SA 5005, Australia
[5] Paul Wild Observatory, CSIRO Australia Telescope National Facility, Narrabri, NSW 2390, Australia
[6] Department of Physics, Yamagata University, Yamagata, Yamagata 990-8560, Japan
[7] Ibaraki Prefectural University of Health Sciences, Ami, Ibaraki 300-0394, Japan
[8] Department of Physics, Tokai University, Hiratsuka, Kanagawa 259-1292, Japan
[9] Department of Physics, Konan University, Kobe, Hyogo 658-8501, Japan
[10] Department of Physical Science, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima, Hiroshima 739-8526, Japan
[11] Solar-Terrestrial Environment Laboratory, Nagoya University, Nagoya, Aichi 464-8602, Japan
[12] School of Allied Health Sciences, Kitasato University, Sagamihara, Kanagawa 228-8555, Japan
[13] Faculty of Management Information, Yamanashi Gakuin University, Kofu, Yamanashi 400-8575, Japan
[14] Faculty of Science, Ibaraki University, Mito, Ibaraki 310-8512, Japan
- ^{vi} Physical Review C, Volume 72, Issue 6, pages 1001-1004, 2005
Fixing Two-Nucleon Weak-Axial Coupling L_{1,A} From $\mu - d$ Capture
Jiunn-Wei Chen[1], Takashi Inoue[1], [2], Xiangdong Ji[3], and Yingchuan Li[3]
[1] Department of Physics, National Taiwan University, Taipei, Taiwan 10617
[2] Department of Physics, Sophia University, Chiyoda-ku, Tokyo 102-8554, Japan
[3] Department of Physics, University of Maryland, College Park, Maryland 20742
- ^{vii} The Astrophysical Journal, Volume 665, pages 980-989, 2007
Low energy cut-offs and hard X-ray spectra in high-z radio-loud quasars: the Suzaku view of RBS 315
F. Tavecchio[1], L. Maraschi[2], G. Ghisellini[1], J. Kataoka[3], L. Foschini[4], R.M. Sambruna[5], G. Tagliaferri[1]
[1] INAF/Osservatorio Astronomico di Brera, via Bianchi 46, 23807 Merate (LC) , Italy
[2] INAF/Osservatorio Astronomico di Brera, via Brera 28, 20121 Milano, Italy
[3] Tokio Institute of Technology, Meguro, Tokio, 152-8551, Japan
[4] INAF/IASF-Bologna, Via Gobetti 101, 40129 Bologna, Italy
[5] NASA Goddard Space Flight Center, Code 661, Greenbelt, MD 20771, USA
- ^{viii} Materials Transactions, Volume 50, No.5, pages 977-983, 2009
First Principles Study on Intrinsic Vacancies in Cubic and Orthorhombic CaTiO₃
Haksung Lee[1], Teruyasu Mizoguchi[1], Takahisa Yamamoto[1, 2], and Yuichi Ikuhara[1, 2, 3]

[1] Institute of Engineering Innovation, The University of Tokyo, Tokyo 113-8656, Japan

[2] Nanostructures Research Laboratory, Japan Fine Ceramics Center, Nagoya 456-8587, Japan

[3] WPI, Advanced Institute for Materials Research, Tohoku University, Sendai 980-8577, Japan

^{ix} Journal of Separation Science, Volume 28, Issues 15, pages 1893-1908, 2005

Silica sol-gel monolithic materials and their use in a variety of applications

Masaru Kato[2], Kumiko Sakai-Kato[3], Toshimasa Toyo'oka[1]

[1] Department of Analytical Chemistry, School of Pharmaceutical Sciences and COE Program in the 21st Century, University of Shizuoka, Shizuoka, Japan

[2] PRESTO, Japan Science and Technology Agency, Saitama, Japan

[3] Research Institute of Pharmaceutical Sciences, Musashino University, Tokyo, Japan

^x Applied Physics Letters, Volume 88, Issue 8, Articles 081907, 2006

Growth of anthracene derivative thin films with a π -stacking structure

Hiroyuki Sasaki[1], Yutaka Wakayama[1], Toyohiro Chikyow[1], Esther Barrena[2], Helmut Dosch[2], Kenji Kobayashi[3]

[1] Nanomaterials Laboratory, National Institute for Materials Science (NIMS), 1-1 Namiki, Tsukuba, Ibaraki 305-0044, Japan

[2] Max Planck Institute for Metals Research, Heisenbergstrasse 3, D-70569 Stuttgart, Germany

[3] Department of Chemistry, Shizuoka University, 836 Ohya, Shizuoka, Shizuoka 422-8529, Japan

^{xi} Biomedical Chromatography, Volume 20, Issues 10, pages 1049-1055, 2006

A further study on the combined use of internal standard and isotope-labeled derivatization reagent for expansion of linear dynamic ranges in liquid chromatography-electrospray mass spectrometry.

Yuhki Tsukamoto[1], Tomofumi Santa[1], Hiroo Yoshida[2], Hiroshi Miyano[2], Takeshi Fukushima[3], Kazuo Hirayama[2], Kazuhiro Imai[4], Takashi Funatsu[1]

[1] Graduate School of Pharmaceutical Sciences, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan

[2] Institute of Life Sciences, Ajinomoto Co., Inc., 1-1, Suzuki-cho, Kawasaki-ku, Kawasaki-shi, Kanagawa 210-8681, Japan

[3] School of Pharmaceutical Sciences, University of Shizuoka, 52-1 Yada, Shizuoka 422-8526, Japan

[4] Research Institute of Pharmaceutical Sciences, Musashino University, 1-1-20 Shinmachi, Nishitokyo-shi, Tokyo 202-8585, Japan

^{xii} The Astrophysical Journal, Volume 669, pages 519-524, 2007

SEARCH FOR SUPERNOVA NEUTRINO BURSTS AT SUPER-KAMIOKANDE

M. Ikeda[1], A. Takeda[2], Y. Fukuda[3], M. R. Vagins[4], K. Abe[2], T. Iida[2], K. Ishihara[2], J. Kameda[2], Y. Koshio[2], A. Minamino[2], C. Mitsuda[2], M. Miura[2], S. Moriyama[2], M. Nakahata[2], Y. Obayashi[2], H. Ogawa[2], H. Sekiya[2], M. Shiozawa[2], Y. Suzuki[2], Y. Takeuchi[2], K. Ueshima[2], H. Watanabe[2], S. Yamada[2], I. Higuchi[5], C. Ishihara[5], M. Ishitsuka[5], T. Kajita[5], K. Kaneyuki[5], G. Mitsuka[5], S. Nakayama[5], H. Nishino[5], K. Okumura[5], C. Sajii[5], Y. Takenaga[5], S. Clark[6], S. Desai[6,7], F. Dufour[6], E. Kearns[6], S. Likhoded[6], M. Litos[6], J. L. Raaf[6], J. L. Stone[6], L. R. Sulak[6], W. Wang[6], M. Goldhaber[8], D. Casper[4], J. P. Cravens[4], J. Dunmore[4], W. R. Kropp[4], D. W. Liu[4], S. Mine[4], C. Regis[4], M. B. Smy[4], H. W. Sobell[4], K. S. Ganezer[9], J. Hill[9], W. E. Keig[9], J. S. Jang[10], J. Y. Kim[10], I. T. Lim[10], K. Scholberg[11], N. Tanimoto[11], C. W. Walter[11], R. Wendell[11], R. W. Ellsworth[12], S. Tasaka[13], G. Guillian[14], J. G. Learned[14], S. Matsuno[14], M. D. Messier[15], Y. Hayato[2,16], A. K. Ichikawa[16], T. Ishida[16], T. Ishii[16], T. Iwashita[16], T. Kobayashi[16], T. Nakadaira[16], K. Nakamura[16], K. Nitta[16], Y. Oyama[16], Y. Totsuka[2,16], A. T. Suzuki[17], M. Hasegawa[18], K. Hiraide[18], H. Maesaka[18], T. Nakaya[18], K. Nishikawa[16], T. Sasaki[18], S. Yamamoto[18], M. Yokoyama[18], T. J. Haines[4,19], S. Dazeley[20], S. Hatakeyama[20], R. Svoboda[20], G. W. Sullivan[21], D. Turcan[21], A. Habig[22], T. Sato[3], Y. Itow[23], T. Koike[23], T. Tanaka[23], C. K. Jung[24], T. Kato[24], K. Kobayashi[24], M. Malek[24], C. McGrew[24], A. Sarrat[24], R. Terri[24], C. Yanagisawa[24], N. Tamura[25], Y. Idehara[1], M. Sakuda[1], M. Sugihara[1], Y. Kuno[26], M. Yoshida[26], S. B. Kim[27], B. S. Yang[27], J. Yoo[27], T. Ishizuka[28], H. Okazawa[29], Y. Choi[30], H. K. Seo[30], Y. Gando[31], T. Hasegawa[31], K. Inoue[31], Y. Furuse[32], H. Ishii[32], K. Nishijima[32], H. Ishino[33], Y. Watanabe[33], M. Koshihara[34], S. Chen[35], Z. Deng[35], Y. Liu[35], D. Kielczewska[4,36], J. Zalipska[36], H. Berns[37], R. Gran[37,22], K. K. Shiraishi[37], A. Stachyra[37], E. Thrane[37], K. Washburn[37], and R. J. Wilkes[37]

[1] Department of Physics, Okayama University, Okayama, Okayama 700-8530, Japan.

[2] Kamioka Observatory, Institute for Cosmic Ray Research, University of Tokyo, Kamioka, Gifu, 506-1205, Japan.

[3] Department of Physics, Miyagi University of Education, Sendai, Miyagi 980-0845, Japan.

[4] Department of Physics and Astronomy, University of California, Irvine, Irvine, CA 92697-4575.

- [5] Research Center for Cosmic Neutrinos, Institute for Cosmic Ray Research, University of Tokyo, Kashiwa, Chiba 277-8582, Japan.
- [6] Department of Physics, Boston University, Boston, MA 02215.
- [7] Current address: Center for GravitationalWave Physics, Pennsylvania State University, University Park, PA 16802.
- [8] Physics Department, Brookhaven National Laboratory, Upton, NY 11973.
- [9] Department of Physics, California State University, Dominguez Hills, Carson, CA 90747.
- [10] Department of Physics, Chonnam National University, Kwangju 500-757, Korea.
- [11] Department of Physics, Duke University, Durham, NC 27708.
- [12] Department of Physics, George Mason University, Fairfax, VA 22030.
- [13] Department of Physics, Gifu University, Gifu, Gifu 501-1193, Japan.
- [14] Department of Physics and Astronomy, University of Hawaii, Honolulu, HI 96822.
- [15] Department of Physics, Indiana University, Bloomington, IN 47405-7105.
- [16] High Energy Accelerator Research Organization (KEK) , Tsukuba, Ibaraki 305-0801, Japan.
- [17] Department of Physics, Kobe University, Kobe, Hyogo 657-8501, Japan.
- [18] Department of Physics, Kyoto University, Kyoto 606-8502, Japan.
- [19] Physics Division, P-23, Los Alamos National Laboratory, Los Alamos, NM 87544.
- [20] Department of Physics and Astronomy, Louisiana State University, Baton Rouge, LA 70803.
- [21] Department of Physics, University of Maryland, College Park, MD 20742.
- [22] Department of Physics, University of Minnesota, Duluth, MN 55812-2496.
- [23] Solar Terrestrial Environment Laboratory, Nagoya University, Nagoya, Aichi 464-8602, Japan.
- [24] Department of Physics and Astronomy, State University of New York, Stony Brook, NY 11794-3800.
- [25] Department of Physics, Niigata University, Niigata, Niigata 950-2181, Japan.
- [26] Department of Physics, Osaka University, Toyonaka, Osaka 560-0043, Japan.
- [27] Department of Physics, Seoul National University, Seoul 151-742, Korea.
- [28] Department of Systems Engineering, Shizuoka University, Hamamatsu, Shizuoka 432-8561, Japan.**
- [29] Department of Informatics in Social Welfare, Shizuoka University of Welfare, Yaizu, Shizuoka, 425-8611, Japan.
- [30] Department of Physics, Sungkyunkwan University, Suwon 440-746, Korea.
- [31] Research Center for Neutrino Science, Tohoku University, Sendai, Miyagi 980-8578, Japan.
- [32] Department of Physics, Tokai University, Hiratsuka, Kanagawa 259-1292, Japan.
- [33] Department of Physics, Tokyo Institute for Technology, Meguro, Tokyo 152-8551, Japan.
- [34] The University of Tokyo, Tokyo 113-0033, Japan.
- [35] Department of Engineering Physics, Tsinghua University, Beijing, 100084, China.
- [36] Institute of Experimental Physics, Warsaw University, 00-681 Warsaw, Poland.
- [37] Department of Physics, University of Washington, Seattle, WA 98195-1560.
- ^{xiii} Biomedical Chromatography, Volume 22, Issue 4, pages 343-353, 2008
Recent progress in the development of derivatization reagents having a benzofurazan structure
Tomofumi Santa[1], Takeshi Fukushima[2], Tomoko Ichibangase[3], Kazuhiro Imai[3]
[1] Graduate School of Pharmaceutical Sciences, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan
[2] Division of Bio-Analytical Chemistry, School of Pharmaceutical Sciences, University of Shizuoka, 52-1 Yada, Shizuoka 422-8526, Japan
- [3] Research Institute of Pharmaceutical Sciences, Musashino University, 1-1-20 Shinmachi, Nishitokyo-shi, Tokyo 202-8585, Japan
- ^{xiv} Angewandte Chemie International Edition, Volume 46, Issue 35, pages 6646-6649, 2007
Enhanced Proton Conduction in Polymer Electrolyte Membranes with Acid-Functionalized Polysilsesquioxane
Kenji Miyatake Prof. Dr.[1], Takahiro Tombe[1], Yohei Chikashige Dr.[1], Hiroyuki Uchida Prof. Dr.[1], Masahiro Watanabe Prof. Dr.[1]
[1] Clean Energy Research Center, University of Yamanashi, 4 Takeda, Kofu, Yamanashi 4008510, Japan
- ^{xv} Advanced Materials, Volume 19, Issue 21, pages 3480-3484, 2007
Self-Walking Gel
S. Maeda[1], Y. Hara[2], T. Sakai[3], R. Yoshida[3], S. Hashimoto[1]

- [1] Department of Applied Physics, Graduate School of Science and Engineering, Waseda University, Okubo 3-4-1, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-8555 (Japan)
- [2] Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Engineering, University of Yamanashi, 4-4-37 Takeda, Kofu, 400-8511 (Japan)**
- [3] Department of Materials Engineering, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 135-8656 (Japan)
- ^{xvi} Chemistry Letters, Volume 35, Number 11, pages 1302-1303, 2006
Submicro- and Nanocrystals of Cyano-bridged FeLa Coordination Polymer in Reversed Micelle
Nobuyuki Kondo[1], Aya Nakajima[1], Yayoi Sasaki[1], Masato Kurihara[1], Mami Yamada[2], Mikio Miyake[2], Fujio Mizukami[3], Masatomi Sakamoto[1]
[1] Graduate School of Science and Engineering, Yamagata University
[2] Advanced Institute of Science and Technology (JAIST)
[3] National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, AIST Tohoku
- ^{xvii} Science and Technology of Advanced Materials, Volume 10, Number 2, Articles 024313, 9pages, 2009
Organic semiconductors for organic field-effect transistors
Yoshiro Yamashita[1]
[1] Department of Electronic Chemistry, Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering, Tokyo and Institute of Technology, Nagatsuta, Midori-ku, Yokohama 226-8502, Japan
- ^{xviii} The Astrophysical Journal, Volume 637, pages 486-493, 2006
A MASSIVE JET EJECTION EVENT FROM THE MICROQUASAR SS 433 ACCOMPANYING RAPID X-RAY VARIABILITY
T. Kotani[1], S. A. Trushkin[2], R. Valiullin[3], K. Kinugasa[4], S. Safi-Harb[5], N. Kawai[1], and M. Namiki[6]
[1] Tokyo Tech, 2-12-1 O-okayama, Tokyo 152-8551, Japan; kotani@hp.phys.titech.ac.jp.
[2] Special Astrophysical Observatory RAS, Nizhnij Arkhyz, Karachaevo-Cherkassia 369167, Russia.
[3] Astrophysical Institute of Kazakh Academy of Sciences, 480020 Alma Ata, Kazakhstan.
[4] Gunma Astronomical Observatory, 6860-86 Nakayama, Takayama, Agatsuma, Gunma 377-0702, Japan.
[5] University of Manitoba, Winnipeg, MB R3T 2N2, Canada.
[6] Osaka University, 1-1 Machikaneyama, Toyonaka, Osaka 560-0043, Japan.
- ^{xix} Publications of the Astronomical Society of Japan, Volume 59, pages S185-S198, 2007
Suzaku Discovery of Iron Absorption Lines in Outburst Spectra of the X-Ray Transient 4U 1630–472
Aya KUBOTA[1], Tadayasu DOTANI[2], Jean COTTAM[3], Taro KOTANI[4], Chris DONE[2], [5], Yoshihiro UEDA[6], Andrew C. FABIAN[7], Tomonori YASUDA[8], Hiromitsu TAKAHASHI[8], Yasushi FUKAZAWA[8], Kazutaka YAMAOKA[9], Kazuo MAKISHIMA[1], [10], Shinya YAMADA[10], Takayoshi KOHMURA[11], and Lorella ANGELINI[3]
[1] Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN), 2-1 Hirosawa, Wako, Saitama 351-0198 aya@crab.riken.jp
[2] Institute of Space and Astronautical Science, Japan Aerospace Exploration Agency, 3-1-1 Yoshinodai, Sagami-hara, Kanagawa 229-8510
[3] Exploration of the Universe Division, NASA Goddard Space Flight Center, Greenbelt, MD 20771, USA
[4] Department of Physics, Tokyo Tech, 2-12-1 Ookayama, Meguro-ku, Tokyo 152-8551
[5] Department of Physics, University of Durham, South Road, Durham, DH1 3LE, UK
[6] Department of Astronomy, Kyoto University, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502
[7] Institute of Astronomy, Madingley Road, Cambridge CB3 0HA, UK
[8] Department of Physical Science, Hiroshima University, 1-3-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, Hiroshima 739-8526
[9] Department of Physics, Aoyama Gakuin University, Sagami-hara, Kanagawa 229-8558
[10] Department of Physics, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033
[11] Physics Department, Kogakuin University, 2665-1 Nakano-cho, Hachioji, Tokyo 192-0015
- ^{xx} Science, Volume 319, no. 5865, pages 927-930, 2008
Discovery of a Jupiter/Saturn Analog with Gravitational Microlensing
B.S. Gaudi[1], D.P. Bennett[2], A. Udalski[3], A. Gould[1], G.W. Christie[4], D. Maoz[5], S. Dong[1], J. McCormick[6], M.K. Szymański[3], P.J. Tristram[7], S. Nikolaev[8], B. Paczyński[9], M. Kubiak[3], G. Pietrzyński[3], [10], I. Soszyński[3], O. Szweczyk[3], K. Ulaczyk[3], Ł.

Wyrzykowski[3], [11] (The OGLE Collaboration) D.L. DePoy[1], C. Han[12], S. Kaspi[5], C.-U. Lee[13], F. Mallia[14], T. Natusch[4], R.W. Pogge[1], B.-G. Park[13], (The μ FUN Collaboration) F. Abe[15], I.A. Bond[16], C.S. Botzler[17], A. Fukui[15], J.B. Hearnshaw[18], Y. Itow[15], K. Kamiya[15], A.V. Korpela[19], P.M. Kilmartin[7], W. Lin[16], K. Masuda[15], Y. Matsubara[15], M. Motomura[15], Y. Muraki[20], S. Nakamura[15], T. Okumura[15], K. Ohnishi[21], N.J. Rattenbury[22], T. Sako[15], To. Saito[23], S. Sato[24], L. Skuljan[16], D.J. Sullivan[19], T. Sumi[15], W.L. Sweatman[16], P.C.M. Yock[17], (The MOA Collaboration) M.D. Albrow[18], A. Allan[25], J.-P. Beaulieu[26], M.J. Burgdorf[27], K.H. Cook[8], C. Coutures[26], M. Dominik[28], S. Dieters[29], P. Fouqué[30], J. Greenhill[29], K. Horne[28], I. Steele[27], Y. Tsapras[27], (From the PLANET and RoboNet Collaborations) B. Chaboyer[31], A. Crocker[32], S. Frank[1], B. Macintosh[8]

[1] Department of Astronomy, Ohio State University, 140 West 18th Avenue, Columbus, OH 43210, USA

[2] Department of Physics, 225 Nieuwland Science Hall, Notre Dame University, Notre Dame, IN 46556, USA

[3] Warsaw University Observatory, Al. Ujazdowskie 4, 00-478 Warszawa, Poland

[4] Auckland Observatory, P.O. Box 24-180, Auckland, New Zealand

[5] School of Physics and Astronomy, Raymond and Beverley Sackler Faculty of Exact Sciences, Tel-Aviv University, Tel Aviv 69978, Israel

[6] Farm Cove Observatory, 2/24 Rapallo Place, Pakuranga, Auckland 1706, New Zealand

[7] Mt. John Observatory, P.O. Box 56, Lake Tekapo 8770, New Zealand

[8] IGPP, Lawrence Livermore National Laboratory, 7000 East Ave., Livermore, CA 94550, USA

[9] Princeton University Observatory, Princeton, NJ 08544, USA

[10] Universidad de Concepción, Departamento de Física, Casilla 160-C, Concepción, Chile

[11] Institute of Astronomy, University of Cambridge, Madingley Road, Cambridge CB3 0HA, UK

[12] Program of Brain Korea, Department of Physics, Chungbuk National University, 410 Seongbong-Rho, Hungduk-Gu, Chongju 371-763, Korea

[13] Korea Astronomy and Space Science Institute, 61-1 Hwaam-Dong, Yuseong-Gu, Daejeon 305-348, Korea

[14] Campo Catino Astronomical Observatory, P.O. Box Guarcino, Frosinone 03016, Italy

[15] Solar-Terrestrial Environment Laboratory, Nagoya University, Nagoya, 464-8601, Japan

[16] Institute for Information and Mathematical Sciences, Massey University, Private Bag 102-904, Auckland 1330, New Zealand

[17] Department of Physics, University of Auckland, Private Bag 92-019, Auckland 1001, New Zealand

[18] University of Canterbury, Department of Physics and Astronomy, Private Bag 4800, Christchurch 8020, New Zealand

[19] School of Chemical and Physical Sciences, Victoria University, Wellington, New Zealand

[20] Department of Physics, Konan University, Nishiokamoto 8-9-1, Kobe 658-8501, Japan

[21] Nagano National College of Technology, Nagano 381-8550, Japan

[22] Jodrell Bank Centre for Astrophysics, The University of Manchester, Manchester, M13 9PL, UK

[23] Tokyo Metropolitan College of Aeronautics, Tokyo 116-8523, Japan

[24] Department of Physics and Astrophysics, Faculty of Science, Nagoya University, Nagoya 464-8602, Japan

[25] School of Physics, University of Exeter, Stocker Road, Exeter, EX4 4QL, UK

[26] Institut d' Astrophysique de Paris, CNRS, Universit Pierre et Marie Curie UMR7095, 98bis Boulevard Arago, 75014 Paris, France

[27] Astrophysics Research Institute, Liverpool John Moores University, Twelve Quays House, Egerton Wharf, Birkenhead CH41 1LD, UK

[28] SUPA, University of St Andrews, School of Physics & Astronomy, North Haugh, St Andrews, KY16 9SS, UK

[29] University of Tasmania, School of Mathematics and Physics, Private Bag 37, Hobart, TAS 7001, Australia

[30] Observatoire Midi-Pyrénées, Laboratoire d' Astrophysique, UMR 5572, Université Paul Sabatier-Toulouse 3, 14 avenue Edouard Belin, 31400 Toulouse, France

[31] Department of Physics and Astronomy, Dartmouth College, 6127 Wilder Laboratory, Hanover, NH 03755, USA

[32] University of Oxford, Denys Wilkinson Building, Keble Road, Oxford, OX1 3RH, UK

^{xxi} The Astrophysical Journal, Volume 684, pages 663-683, 2008

A LOW-MASS PLANET WITH A POSSIBLE SUB-STELLAR-MASS HOST IN MICROLENSING EVENT MOA-2007-BLG-192

D. P. Bennett[1], [2], I. A. Bond[1], [3], A. Udalski[4], [5], T. Sumi[1], [6], F. Abe[1], [6], A. Fukui[1], [6], K. Furusawa[1], [6], J. B.

引用索引データベースにおける著者所属機関の誤記載の研究

Hearnshaw[1], [7], S. Holderness[1], [8] Y. Itow[1], [6], K. Kamiya[1], [6], A. V. Korpela[1], [9], P. M. Kilmartin[1], [10], W. Lin[1], [3], C. H. Ling[1], [3], K. Masuda[1], [6], Y. Matsubara[1], [6], N. Miyake[1], [6], Y. Muraki[1], [11], M. Nagaya[1], [6], T. Okumura[1], [6], K. Ohnishi[1], [12], Y. C. Perrott[1], [13], N. J. Rattenbury[1], [14], T. Sako[1], [6], To. Saito[1], [15], S. Sato[1], [16], L. Skuljan[1], [3], D. J. Sullivan[1], [9], W. L. Sweatman[1], [3], P. J. Tristram[1], [10], P. C. M. Yock[1], [13], M. Kubiak[4], [5], M. K. Szymański[4], [5], G. Pietrzyński[4], [5], [17], I. Soszyński[4], [5], O. Szewczyk[4], [5], [17] x. Wyrzykowski[4], [5], [18], K. Ulaczyk[4], [5], V. Batista[19], J. P. Beaulieu[19], S. Brillant[20], A. Cassan[21], P. Fouqué[22], P. Kervella[23], D. Kubas[20], and J. B. Marquette[19]

[1] MOA Collaboration.

[2] Department of Physics, University of Notre Dame, IN46556; bennett@nd.edu.

[3] Institute of Information and Mathematical Sciences, Massey University, Auckland, New Zealand; i.a.bond@massey.ac.nz.

[4] OGLE Collaboration.

[5] Warsaw University Observatory, Al. Ujazdowskie 4 00-478 Warszawa, Poland; udalski@astrouw.edu.pl.

[6] Solar-Terrestrial Environment Laboratory, Nagoya University, Nagoya 464-8601, Japan; sumi@stelab.nagoya-u.ac.jp.

[7] Department of Physics and Astronomy, University of Canterbury, Private Bag 4800, Christchurch, New Zealand.

[8] Computer Science Department, University of Auckland, Auckland, New Zealand.

[9] School of Chemical and Physical Sciences, Victoria University, Wellington, New Zealand.

[10] Mt. John Observatory, P.O. Box 56, Lake Tekapo 8770, New Zealand.

[11] Konan University, Kobe, Japan.

[12] Nagano National College of Technology, Nagano 381-8550, Japan.

[13] Department of Physics, University of Auckland, Auckland, New Zealand.

[14] Jodrell Bank Observatory, The University of Manchester, Macclesfield, Cheshire SK11 9DL, UK.

[15] Tokyo Metropolitan College of Aeronautics, Tokyo 116-8523, Japan.

[16] Department of Physics and Astrophysics, Faculty of Science, Nagoya University, Nagoya 464-8602, Japan.

[17] Departamento de Física, Astronomy Group, Universidad de Concepción, Casilla 160-C, Concepción, Chile.

[18] Institute of Astronomy, University of Cambridge, Madingley Road, Cambridge CB3 0HA, UK.

[19] Institut d' Astrophysique de Paris, UMR7095 CNRS, Université Pierre & Marie Curie, 98 bis Boulevard Arago, 75014 Paris, France.

[20] European Southern Observatory, Casilla 19001, Vitacura 19, Santiago, Chile.

[21] Astronomisches Rechen-Institut, Zentrum für Astronomie, Heidelberg University, Mönchhofstr. 12Y14, 69120 Heidelberg, Germany.

[22] Observatoire Midi-Pyrénées, UMR 5572, 14, Avenue Edouard Belin, 31400 Toulouse, France.

[23] LESIA, Observatoire de Paris, CNRS UMR 8109, UPMC, Université Paris Diderot, 5 Place Jules Janssen, F-92195 Meudon, France.

^{xiii} The Astrophysical Journal, Volume 652, pages 1268-1276, 2006

CANGAROO III OBSERVATIONS OF THE SUPERNOVA REMNANT RX J0852.04622

R. Enomoto[1], S. Watanabe[2], T. Tanimori[2], A. Asahara[2], G. V. Bicknell[3], R. W. Clay[4], P. G. Edwards[5], S. Gunji[6], S. Hara[7], T. Hattori[8], S. Hayashi[9], Y. Higashi[2], R. Inoue[8], C. Itoh[10], S. Kabuki[2], F. Kajino[9], H. Katagiri[11], A. Kawachi[8], S. Kawasaki[1], T. Kifune[1], R. Kiuchi[1], K. Konno[6], L. Ksenofontov[1], H. Kubo[2], J. Kushida[8], Y. Matsubara[12], T. Mizukami[2], R. Mizuniwa[8], M. Mori[1], H. Muraishi[13], T. Naito[14], T. Nakamori[2], D. Nishida[2], K. Nishijima[8], M. Ohishi[1], Y. Sakamoto[8], V. Stamatescu[4], S. Suzuki[15], T. Suzuki[15], D. L. Swaby[4], H. Tanimura[2], G. Thornton[4], F. Tokanai[6], K. Tsuchiya[2], Y. Yamada[9], M. Yamazaki[9], S. Yanagita[15], T. Yoshida[15], T. Yoshikoshi[1], M. Yuasa[1], and Y. Yukawa[1]

[1] Institute for Cosmic Ray Research, University of Tokyo, Kashiwa, Chiba 277-8582, Japan.

[2] Department of Physics, Graduate School of Science, Kyoto University, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japan.

[3] Research School of Astronomy and Astrophysics, Australian National University, ACT 2611, Australia.

[4] Department of Physics and Mathematical Physics, University of Adelaide, SA 5005, Australia.

[5] Paul Wild Observatory, Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation Australia Telescope National Facility, Locked Bag 194, Narrabri, NSW 2390, Australia.

[6] Department of Physics, Yamagata University, Yamagata, Yamagata 990-8560, Japan.

[7] Ibaraki Prefectural University of Health Sciences, Ami, Ibaraki 300-0394, Japan.

- [8] Department of Physics, Tokai University, Hiratsuka, Kanagawa 259-1292, Japan.
- [9] Department of Physics, Konan University, Kobe, Hyogo 658-8501, Japan.
- [10] National Institute of Radiological Sciences, Chiba, Chiba 263-8555, Japan.
- [11] Department of Physical Science, Graduate School of Science, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima, Hiroshima 739-8526, Japan.
- [12] Solar-Terrestrial Environment Laboratory, Nagoya University, Nagoya, Aichi 464-8602, Japan.
- [13] School of Allied Health Sciences, Kitasato University, Sagami-hara, Kanagawa 228-8555, Japan.
- [14] Faculty of Management Information, Yamanashi Gakuin University, Kofu, Yamanashi 400-8575, Japan.**
- [15] Faculty of Science, Ibaraki University, Mito, Ibaraki 310-8512, Japan.
- ^{xxiii} Langmuir, Volume 24, pages 12026-12031, 2008
 Photothermal Reshaping of Gold Nanorods Depends on the Passivating Layers of the Nanorod Surfaces
 Yukichi Horiguchi[1], Kanako Honda[2], Yuichi Kato[1], Naotoshi Nakashima[1], and Yasuro Niidome [1]
 [1] Department of Applied Chemistry, Graduate School of Engineering, Kyushu University, Moto-oka, Fukuoka 819-0395, Japan
[2] Department of Biological and Environmental Chemistry, Kinki University-Kyushu, 11-6 Kayanomori, Izuka 820-8555, Japan
- ^{xxiv} Science and Technology of Advanced Materials, Volume 9, Articles 024207, 5pages, 2008
 Microwave magnetoresistance in Ge: Mnnanowires and nanofilms
 Roman Morgunov[1], Yoshifumi Tanimoto[2] and Olga Kazakova[3]
 [1] Institute of Problems of Chemical Physics, Chernogolovka, 142432, Russia
[2] Graduate School of Science, Hiroshima University Higashi-Hiroshima 739-5826, Japan
 [3] National Physical Laboratory, Teddington TW11 0LW, UK
- ^{xxv} Advanced Functional Materials, Volume 19, pages 545-553, 2009
 Synthesis of Nanohole-Structured Single-Crystalline Platinum Nanosheets Using Surfactant-Liquid-Crystals and their Electrochemical Characterization
 Tsuyoshi Kijima[1]*, Yu Nagatomo[1], Hirokatsu Takemoto[1], Masafumi Uota[2],[6], Daisuke Fujikawa[1],[4], Yuzo Sekiya[1], Teppei Kishishita[1], Makoto Shimoda[1], Takumi Yoshimura[1],[5], Hideya Kawasaki[1],[3], Go Sakai[1]
 [1] Department of Applied Chemistry, Faculty of Engineering, Miyazaki University Miyazaki, 889-2192(Japan)
 [2] CREST, Japan Science and Technology Cooperation 4-1-8 Honcho, Kawaguchi (Japan)
[3] Department of Chemistry and Materials Engineering Faculty of Chemistry, Materials and Bioengineering, Kansai University Suita, Osaka 564-8680(Japan)
 [4] Present address: Corporate Research Laboratories Mitsubishi Rayon Co. Ltd., Ohtake, Hiroshima, 739-0693, Japan
 [5] Present address: Sumika Chemical Analysis Service, Ltd., Tsukuba Laboratory, 6, Kitahara, Tsukuba, Ibaraki, 300-3266, Japan
 [6] Present address: DIC Corporation, Central Research Laboratories, 631 Sakato, Sakura, Chiba 285-8668, Japan
- ^{xxvi} Physical Review B, Volume 72, Issue 12, Articles 125430, 5pages, 2005
 Conservative and dissipative force imaging of switchable rotaxanes with frequency-modulation atomic force microscopy
 Alan A. Farrell[1]*, Takeshi Fukuma[2], Takayuki Uchihashi[1], Euan R. Kay[3], Giovanni Bottari[3], David A. Leigh[3], †, Hirofumi Yamada[2], and Suzanne P. Jarvis[1]
 [1] Nanoscale Function Group, Centre for Research on Adaptive Nanostructures and Nanodevices, University of Dublin, Trinity College, Dublin 2, Ireland
[2] Department of Electronic Science and Engineering, Kyoto University A1-326, Katsura, Nishikyo, Kyoto 615-8510, Japan
 [3] School of Chemistry, University of Edinburgh, The King' s Buildings, West Mains Road, Edinburgh EH9 3JJ, UK
- ^{xxvii} Advanced Materials, Volume 19, Issue 4, pages 1826-1829, 2007
 A Novel Strategy for Two-Photon Holographic Recording: Stepwise Two-Photon Absorption of α -Quinque thiophene Followed by Energy Transfer to an Aryl Azide
 M. Shimizu[1], M. Schelper[1], K. Mochida[1], T. Hiyama[1], M. Adachi[2], Y. Sasaki[2], S. Akiyama[2], S. Maeda[2], H. Kanbara[3], Y. Mori[3], T. Kurihara[3]
[1] Department of Material Chemistry, Graduate School of Engineering, Kyoto University, Kyoto University Katsura, Nishikyo-ku, Kyoto 615-8510(Japan)
 [2] Mitsubishi Chemical Group, Science and Technology Research Center, Inc., Kamoshida, Aoba-ku, Yokohama 227-8502(Japan)

- [3] NTT Photonics Laboratories, Nippon Telegraph and Telephone Corporation, Morinosato-Wakamiya, Atsugi 243-0198(Japan)
- ^{xxviii} Angewandte Chemie International Edition, Volume 48, Issues 20, pages 3653-3656, 2009
- 1,4-Bis (alkenyl) -2,5-dipiperidinobenzenes: Minimal Fluorophores Exhibiting Highly Efficient Emission in the Solid State †
Masaki Shimizu Prof. Dr.[1], Youhei Takeda[1], Masahiro Higashi[1], Tamejiro Hiyama Prof. Dr.[1]
- [1] Department of Material Chemistry, Graduate School of Engineering, Kyoto University, Kyoto University Katsura, Nishikyo-ku, Kyoto 615-8510(Japan)**
- ^{xxix} The Astrophysical Journal, Volume 618, pages 1044-1048, 2005
- Periodic Change of Solar Differential Rotation
S.-I. Itoh[1], K. Itoh[2], A. Yoshizawa[3,5], N. Yokoi[4]
- [1] Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University 87, Kasuga 816-8580, Japan; s-iitoh@riam.kyushu-u.ac.jp**
[2] National Institute for Fusion Science, Toki 509-5292, Japan; itoh@nifs.ac.jp
[3] 3-2-10-306, Tutihasi, Miyamae-ku, Kawasaki 216-0005, Japan; ay-tschi@mbg.nifty.com
[4] Institute of Industrial Science, University of Tokyo, Komaba, Tokyo 153-8505, Japan; nobiyokoi@iis.u-tokyo.ac.jp
[5] Visiting Professor, National Institute for Fusion Science, Toki 509-5292, Japan.
- ^{xxx} Chemical Engineering Journal, Volume 143, pages 225-229, 2008
- Dispersion of Pt/Rucatalyst onto arc-soot and its performanceevaluation as DMFCelectrode
S. Oke[1], K. Higashi[1], K. Shinohara[1], Y. Izumi[1], H. Takikawa[1], T. Sakakibara[2], S. Itoh[3], T. Yamaura[3], G. Xu[4], K. Miura[5], K. Yoshikawa[5], T. Sakakibara[6], S. Sugawara[6], T. Okawa[7], N. Aoyagi[7]
- [1] Toyohashi University of Technology, 1-1 Hibarigaoka, Tempaku, Toyohashi 441-8580, Japan**
[2] Gifu National College of Technology, 2236-2 Kamimakuwa, Motosu 501-0495, Japan
[3] Futaba Corporation, 1080 Yabutsuka, Chosei-mura, Chosei-gun 299-4395, Japan
[4] Shonan Plastic Mfg. Co., Ltd., 31-27 Daikan-cho, Hiratsuka 254-0807, Japan
[5] Tokai Carbon Co., Ltd., 394 Subashiri, Oyama-cho, Sunto-gun 410-1431, Japan
[6] ENAX Inc., 2-11-19 Otowa, Bunkyo-ku, Tokyo 112-0013, Japan
[7] Daiken Chemical Co., Ltd., 1-3-3 Techno Port, Mikuni-cho, Sakai 913-0038, Japan
- ^{xxxi} The Astrophysical Journal, Volume 634, pages 534-541, 2005
- SUPERNOVA NEUTRINO EFFECTS ON r-PROCESS NUCLEOSYNTHESIS IN BLACK HOLE FORMATION
T. Sasaqui[1, 2, 3], T. Kajino[1, 2], and A. B. Balantekin[4, 5]
- [1] Department of Astronomy, Graduate School of Science, University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan.
[2] National Astronomical Observatory and Graduate University for Advanced Study, 2-21-1 Osawa, Mitaka, Tokyo 181-8588, Japan.
[3] Current address: Naka Division, Nanotechnology Products Business Group, Hitachi High-Technologies Corporation, 882, Ichige, Hitachinaka, Ibaraki 312-0033, Japan.
[4] Physics Department, University of Wisconsin, 1150 University Avenue, Madison, WI 53706.
[5] Department of Physics, Tohoku University, Sendai 980-8578, Japan.
- ^{xxxii} Publications of the Astronomical Society of Japan, Volume 61, pages 227-236, 2009
- Unified Rotation Curve of the Galaxy — Decomposition into de Vaucouleurs Bulge, Disk, Dark Halo, and the 9-kpc Rotation Dip —
Yoshiaki Sofue[1, 2], Mareki Honma[3], and Toshihiro Omodaka[1]
- [1] Department of Physics and Astronomy, Kagoshima University, Kagoshima, 890-0065 Kagoshima
[2] Institute of Astronomy, University of Tokyo, Mitaka, 181-0015 Tokyo.
[3] Mizusawa VERA observatory, National Astronomical observatory of Japan, Graduate University for Advanced Study, Mitaka, Tokyo 181-8588
- ^{xxxiii} The Astrophysical Journal Letters, Volume 692, Number 2, pages L88-L91, 2009
- NEAR-INFRARED CIRCULAR POLARIMETRY AND CORRELATION DIAGRAMS IN THE ORION BECKLIN-NEUGEBAUER/
KLEINMAN-LOW REGION: CONTRIBUTION OF DICHROIC EXTINCTION
T. Fukue[1], M. Tamura[2],[3], R. Kandori[2], N. Kusakabe[2], J. H. Hough[4], P. W. Lucas[4], J. Bailey[5], D. C. B. Whittet[6], Y. Nakajima[2], J. Hashimoto[3], and T. Nagata[1]
- [1] Department of Astronomy, Kyoto University, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japan; tsubasa@kustastro.kyoto-u.ac.jp

- [2] National Astronomical Observatory, 2-21-1 Osawa, Mitaka, Tokyo 181-8588, Japan
- [3] Graduate University of Advanced Science, 2-21-1 Osawa, Mitaka, Tokyo 181-8588, Japan
- [4] Centre for Astrophysics Research, Science and Technology Research Institute, University of Hertfordshire, Hatfield AL10 9AB, UK
- [5] School of Physics, University of New South Wales, NSW 2052, Australia
- [6] Department of Physics and Astronomy, Rensselaer Polytechnic Institute, Troy, NY 12180-3590, USA
- ^{xxxiv} Earth, Planets and Space, Volume 60, pages 313-319, 2008
- Complexities of gamma-ray line intensities from the lunar surface
- Naoyuki Yamashita[1], Nobuyuki Hasebe[1], Takashi Miyachi[1], Masanori Kobayashi[2], Osamu Okudaira[1], Shingo Kobayashi[1], Takeshi Ishizaki[1], Kunitomo Sakurai[1], Mitsuhiro Miyajima[1], Robert C. Reedy[3], Claude d'Uston[4], Sylvestre Maurice[4], and Olivier Gasnault[4]
- [1] Research Institute for Science and Engineering, Waseda University, 3-4-1 Okubo, Shinjuku, Tokyo 169-8555 Japan
- [2] Nippon Medical School, 2-297-2 Kosugicho, Nakahara, Kawasaki, Kanagawa 211-0063 Japan
- [3] Institute of Meteoritics, University of New Mexico, Albuquerque, NM 87131-1126 USA
- [4] Centre d'Etude Spatiale des Rayonnements, 9 avenue Colonel Roche, B.P. 4346, 31028 Toulouse cedex 4, France
- ^{xxxv} Monthly Notices of the Royal Astronomical Society, Volume 360, pages L15-L19, 2005
- One-armed spiral structure of accretion discs induced by a phase-dependent mass transfer in Be/X-ray binaries
- Kimitake Hayasaki[1, 2], and Atsuo T. Okazaki[3]
- [1] Department of Applied Physics, Graduate School of Engineering, Hokkaido University, Kitaku N13W8, Sapporo 060-8628, Japan.
- [2] Centre for Astrophysics and Supercomputing, Swinburne University of Technology, Hawthorn Victoria 3122 Australia.
- [3] Faculty of Engineering, Hokkai-Gakuen University, Toyohira-ku, Sapporo 062-8605, Japan.
- ^{xxxvi} Applied Surface Science, Volume 255, Issues 8, pages 4611-4615, 2009
- Growth of Y-junction bamboo-shaped CNx nanotubes on GaAs substrate using single feedstock
- Pradip Ghosh[1], M. Subramanian[2], R.A. Afre[2], M. Zamri[1], T. Soga[1, 2], T. Jimbo[1], V. Filip[3], M. Tanemura[1]
- [1] Department of Environmental Technology and Urban Planning, Graduate School of Engineering, Gokiso-cho, Showa-ku, Nagoya, 466-8555, Japan
- [2] Department of Frontier Materials, Graduate School of Engineering, Gokiso-cho, Showa-ku, Nagoya, 466-8555, Japan
- [3] University of Bucharest, Faculty of Physics, P.O. Box MG-II, Bucharest-Magurele, 76900, Romania
- ^{xxxvii} Electrochimica Acta, Volume 53, Issue 2, pages 1013-1019, 2007
- Effect of AlF₃ coating amount on high voltage cycling performance of LiCoO₂
- Y.-K. Sun[1], S.-W. Cho[1], S.-T. Myung[2], K. Amine[3], Jai Prakash[4]
- [1] Center for Information and Communication Materials, Department of Chemical Engineering, Hanyang University, Seoul 133-791, South Korea
- [2] Department of Chemical Engineering, Iwate University, Iwate 020-8551, Japan
- [3] Electrochemical Technology Program, Chemical Engineering Division, Argonne National Laboratory, 9700 S. Cass Avenue, Argonne, IL 60439, USA
- [4] Department of Chemical and Biological Engineering, Illinois Institute of Technology, 10 W. 33rd Street, Chicago, IL, USA
- ^{xxxviii} The Astrophysical Journal, Volume 651, pages 994-1004, 2006
- Early-Time Chromatic Variations in the Wind-Swept Medium of GRB 021211 and the Faintness of its Afterglow
- M. C. Nysewander[1], D. E. Reichart[1], H.-S. Park[2], G. G. Williams[3], K. Kinugasa[4], D. Q. Lamb[5], A. A. Henden[6], S. Klose[7], T. Kato[8], A. Harper[5], H. Yamaoka[9], C. Laws[10], K. Torii[11], D. G. York[5], J. C. Barentine[12], J. Dembicky[12], R. J. McMillan[12], J. A. Moran[1], D. H. Hartmann[13], B. Metzkeback[12], M. B. Bayliss[1], J. W. Bartelme[1], J. A. Crain[1], A. C. Foster[1], M. Schwartz[14], P. Holvorcem[14], P. A. Price[15], R. Canterna[16], G. B. Crew[17], G. R. Ricker[17], and S. D. Barthelmy[18]
- [1] Department of Physics and Astronomy, University of North Carolina at Chapel Hill, Campus Box 3255, Chapel Hill, NC 27599; mnysewan@physics.unc.edu, reichart@physics.unc.edu
- [2] Lawrence Livermore National Laboratory, 7000 East Avenue, Livermore, CA 94550
- [3] MMT Observatory, University of Arizona, Tucson, AZ 85721
- [4] Gunma Astronomical Observatory, 6860-86 Nakayama Takayama, Agatsuma, Gunma 377-0702, Japan

引用索引データベースにおける著者所属機関の誤記載の研究

- [5] Department of Astronomy & Astrophysics, University of Chicago, 5640 S. Ellis Ave., Chicago, IL, 60615
- [6] AAVSO, Clinton B. Ford Astronomical Data and Research Center, 25 Birch St., Cambridge, MA
- [7] Thüringer Landessternwarte, 07778 Tautenburg, Germany
- [8] Department of Astronomy, Faculty of Science, Kyoto University, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japan
- [9] Department of Physics, Kyushu University, Fukuoka 810-8560, Japan
- [10] Department of Astronomy, Box 351580, University of Washington, Seattle, WA 98195
- [11] Department of Earth and Space Science, Graduate School of Science, 1-1 Machikaneyama-cho, Toyonaka, Osaka 560-0043, Japan
- [12] Apache Point Observatory, P.O. Box 59, Sunspot, NM 88349
- [13] Clemson University, Department of Physics and Astronomy, Clemson, SC 29634
- [14] Tenagra Observatory, HC2 Box 292, Nogales, AZ 85621
- [15] University of Hawaii, Institute of Astronomy, 2680 Woodlawn Drive, Honolulu, HI 96822-1897
- [16] University of Wyoming, Department of Physics and Astronomy, P.O. Box 3905, Laramie, WY 82072
- [17] Center for Space Research, Massachusetts Institute of Technology, 70 Vassar Street, Cambridge, MA, 02139
- [18] NASA Goddard Space Flight Center, Code 661, Greenbelt, MD 20771
- ^{xxxix} Il Nuovo Cimento B, Volume 121, pages 1489-1490, 2006
- Optical afterglows detected by the Lulin One-meter Telescope
- Huang, K. Y.; Urata, Y.; Kuo, P. H.; Lee, Y. H.; Ip, W. H.; Tamagawa, T.; Onda, K.; Tashiro, M.; Qiu, Y.; Makishima, K.
- ^{xi} Physical Review D, Volume 80, Issue 2, Articles 02402, 9pages, 2009
- Measurement of the Kerr Spin Parameter by Observation of a Compact Object's Shadow
- Kenta Hioki[1], [2], and Kei-ichi Maeda[1], [2]
- [1] Department of Physics, Waseda University, Okubo 3-4-1, Shinjuku, Tokyo 169-8555, Japan
- [2] Waseda Research Institute for Science and Engineering, Okubo 3-4-1, Shinjuku, Tokyo 169-8555, Japan
- ^{xii} Soft Matter, Volume 5, pages 3106-3113, 2009
- Spinodal decomposition in siloxane sol-gel systems in macroporous media
- Kazuyoshi Kanamori[1], Kazuki Nakanishi[1], and Teiichi Hanada[1]
- [1] Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japan
- ^{xiii} International Journal of Modern Physics D, Volume 17, Issue 9, pages 1483-1489, 2008
- Suzaku View of Powerful Gamma-Ray Quasars
- Kataoka, Jun[1]
- [1] 2-12-1, Ohokayama, Meguro, Tokyo 152-8551, Japan kataoka@hp.phys.titech.ac.jp
- ^{xiiii} Chemical Communications, Issue 19, pages 2215-2217, 2008
- Template synthesis of water-dispersible and magnetically responsive carbon nano test tubes
- Hironori Orikasa[1], Nobuhiro Inokuma[1], Somlak Ittisanronnachai[1], Xiao-Hui Wang[1], Osamu Kitakami[1], and Takashi Kyotani[1]
- [1] 980-8577, 2-1-1 Katahira Aobaku, Sendai, Japan
- ^{xiv} The Journal of Biological Chemistry, Volume 283, pages 36031-36038, 2008
- Human Anti-gold Antibodies BIOFUNCTIONALIZATION OF GOLD NANOPARTICLES AND SURFACES WITH ANTI-GOLD ANTIBODIES
- Hideki Watanabe[1], Takeshi Nakanishi[1], Mitsuo Umetsu[1], and Izumi Kumagai[1, 2]
- [1] From the Department of Biomolecular Engineering, Graduate School of Engineering, Tohoku University, Sendai 980-8579, Japan
- [2] To whom correspondence should be addressed: Aoba 6-6-11-606, Aoba-ku, Sendai 980-8579, Japan
- ^{xv} The Astrophysical Journal, Volume 618, pages 817-821, 2005
- FAST [Fe II] WIND WITH A WIDE OPENING ANGLE FROM L1551 IRS 5 1
- Tae-Soo Pyo[2], Masahiko Hayashi[2],[3], Naoto Kobayashi[2],[4], Alan T. Tokunaga[5], Hiroshi Terada[2], Masahiro Tsujimoto[6], Saeko S. Hayashi[2],[3], Tomonori Usuda[2], Takuya Yamashita[2], Hideki Takami[2], Naruhisa Takato[2], and Ko Nedachi[4]
- [1] Based on data collected at the Subaru Telescope, which is operated by the National Astronomical Observatory of Japan.
- [2] Subaru Telescope, National Astronomical Observatory of Japan, 650 North A 'ohoku Place, Hilo, HI 96720.

- [3] School of Mathematical and Physical Science, The Graduate University for Advanced Studies (SOKENDAI) , Hayama, Kanagawa 240-0193, Japan.
- [4] Institute of Astronomy, University of Tokyo, Mitaka, Tokyo 181-0015, Japan.
- [5] Institute for Astronomy, University of Hawaii, 2680 Woodlawn Drive, Honolulu, HI 96822.
- [6] Department of Astronomy and Astrophysics, Pennsylvania State University, 525 Davey Laboratory, University Park, PA 16802.
- ^{xvi} Astronomy & Astrophysics, Volume 438, Number 2, pages L17-L20, 2005
A 2004 Geminid meteor spectrum in the visible-ultraviolet region
T. Kasuga[1, 2], J. Watanabe[2] and N. Ebizuka[3]
[1] Department of Astronomical Science, School of Physical Science, The Graduate University for Advanced Studies (Sokendai) , 2-21-1 Osawa, Mitaka, Tokyo 181-8588, Japan e-mail: kasugats@cc.nao.ac.jp
- [2] National Astronomical Observatory of the Japan (NAOJ) , National Institute of Natural Science, 2-21-1 Osawa, Mitaka, Tokyo 181-8588, Japan e-mail: jun.watanabe@nao.ac.jp
- [3] RIKEN (The Institute of Physical and Chemical Research) , Wako, Saitama 351-0198, Japan e-mail: ebizuka@riken.go.jp
- ^{xvii} Chemical Communications, Issue 12, pages 1538-1540, 2009
Fabrication of a tubular FeCo bimetallic nanostructure using a cellulose-cobalt hexacyanoferrate composite as a precursor
Mami Yamada[1], [2], Tomohiro Tsuji[3], Mikio Miyake[3], and Toshiyuki Miyazawa[1]
[1] Department of Applied Chemistry, Tokyo University of Agriculture and Technology (TAT) , 2-24-16, Nakacho, Koganei, Tokyo 184-8588, Japan
- [2] PRESTO/Japan Science and Technology Agency (JST) , 4-1-8 Honcho Kawaguchi, Saitama, Japan
- [3] Department of Physical Materials Science, Japan Advanced Institute of Science and Technology (JAIST) , 1-1 Asahidai, Nomi-shi, Ishikawa 923-1292, Japan
- ^{xviii} The Astrophysical Journal, Volume 672, pages 553-557, 2008
A SUBSTELLAR COMPANION TO THE INTERMEDIATE-MASS GIANT 11 COMAE
Y.-J. Liu[1], [2], Bun'ei Sato[3], G. Zhao[1], Kunio Noguchi[4], H. Wang[1], Eiji Kambe[5], Hiroyasu Ando[4], Hideyuki Izumiura[5, 6], Y.-Q. Chen[1], Norio Okada[4], Eri Toyota[7], Masashi Omiya[8], Seiji Masuda[9], Yoichi Takeda[4], Daisuke Murata[7], Yoichi Itoh[7], Michitoshi Yoshida[5], Eiichiro Kokubo[4], and Shigeru Ida[10]
- [1] National Astronomical Observatories, Chinese Academy of Sciences, 100012 Beijing, China; lyj@bao.ac.cn; gzhao@bao.ac.cn.
- [2] Graduate University of the Chinese Academy of Sciences, 100049 Beijing, China.
- [3] Global Edge Institute, Tokyo Institute of Technology, Meguro-ku, Tokyo 152-8550, Japan.
- [4] National Astronomical Observatory of Japan, National Institutes of Natural Sciences, Mitaka, Tokyo 181-8588, Japan.
- [5] Okayama Astrophysical Observatory, National Astronomical Observatory of Japan, National Institutes of Natural Sciences, Asakuchi, Okayama 719-0232, Japan.
- [6] Department of Astronomical Science, Graduate University for Advanced Studies (Sokendai) , Shonan Village, Hayama, Kanagawa 240-0193, Japan.
- [7] Graduate School of Science, Kobe University, Nada-ku, Kobe 657-8501, Japan.
- [8] Department of Physics, Tokai University, Hiratsuka, Kanagawa 259-1292, Japan.
- [9] Tokushima Science Museum, Atamu Land Tokushima, Itano-chō, Tokushima 779-0111, Japan.
- [10] Department of Earth and Planetary Sciences, Tokyo Institute of Technology, Meguro-ku, Tokyo 152-8550, Japan.
- ^{xix} Publications of the Astronomical Society of Japan, Volume 60, pages 667-681, 2008
Toward first-principle simulations of galaxy formation: I. How should we choose star formation criteria in high-resolution simulations of disk galaxies?
Takayuki R. Saitoh[1], Hiroshi Daisaka[2], Eiichiro Kokubo[1, 3], Junichiro Makino[1, 3], Takashi Okamoto[4], Kohji Tomisaka[1, 3], Keiichi Wada[1, 3], Naoki Yoshida[5] (Project Milkyway)
- [1] Center for Computational Astrophysics, National Astronomical Observatory of Japan, 2-21-1 Osawa, Mitaka-shi, Tokyo 181-8588
- [2] Graduate School of Commerce and Management, Hitotsubashi University, Naka 2-1 Kunitachi-shi, Tokyo 186-8601
- [3] Division of Theoretical Astronomy, National Astronomical Observatory of Japan, 2-21-1 Osawa, Mitaka-shi, Tokyo 181-8588; and School of Physical Sciences, Graduate University of Advanced Study (SOKENDAI)
- [4] Institute for Computational Cosmology, Department of Physics, Durham University, South Road, Durham, DH1 3LE, UK

引用索引データベースにおける著者所属機関の誤記載の研究

- [5] Department of Physics, Nagoya University, Furocho, Chikusa, Nagoya 464-8602
- ⁱ Il Nuovo Cimento B, Volume 121, pages 1127-1131, 2006
Soft-gamma-ray observations of GRB prompt emission with Suzaku Wideband All-sky Monitor
Ohno, M.; Takahashi, T.; Asano, T.; Uehara, T.; Fukazawa, Y.; Yamaoka, K.; Sugita, S.; Suzuki, M.; Terada, Y.; Tamagawa, T.; Abe, K.; Endo, Y.; Onda, K.; Sato, Y.; Suzuki, M.; Urata, Y.; Tashiro, M.; Hong, S.; Enoto, T.; Miyawaki, R.; Kokubun, M.; Makishima, K.; Sato, G.; Nakazawa, K.; Takahashi, T.; Suzaku Hxd-li Team
- ⁱⁱ Astronomy & Astrophysics, Volume 503, pages 25-34, 2009
The onset of star formation in primordial haloes
U. Maio[1, 2], B. Ciardi[1], N. Yoshida[3], K. Dolag[1], and L. Tornatore[4]
[1] Max-Planck-Institut fuer Astrophysik, Karl-Schwarzschild-StraÙe 1, 85748 Garching bei M¼nchen, Germany e-mail: maio@mpa-garching.mpg.de
[2] Max-Planck-Institut fuer extraterrestrische physik, GiessenbachstraÙe 1, 85748 Garching bei M¼nchen, Germany e-mail: umaio@mpe.mpg.de
[3] IPMU, U-Tokyo 5-1-5 Kashiwanoha, Kashiwa, Chiba 277-8568, Japan
[4] INAF - Osservatorio astronomico di Trieste, via Tiepolo 11, 34143 Trieste, Italy
- ⁱⁱⁱ Bulletin of the Chemical Society of Japan, Volume 81, pages 1567-1574, 2008
Preparation and Characterization of Spherical and Balloon-Like Calcium Phosphate Particles
Kasuhiko Kandori[1], Kiri Tada[1], Masao Fukusumi[2], and Yoshiaki Morisada[2]
[1] School of Chemistry, Osaka university of Education, Asahigaoka 4-698-1, Kashiwara-shi, Osaka 582, Japan
[2] Osaka Municipal Technical Research Institute Department of Processing Technology 1-6-50 Morinomiya, Joto-ku, Osaka 536-8553, Japan
- ⁱⁱⁱⁱ Nano Letters, Volume 8, Issue 9, pages 2858-2861, 2008
Enhanced Current Efficiency from Bio-Organic Light-Emitting Diodes Using Decorated Amyloid Fibrils with Conjugated Polymer
Hideyuki Tanaka[1, 4], Anna Herland[1], Lars J. Lindgren[2, 3], Tetsuo Tsutsui[4], Mats R. Andersson[2, 3], and Olle Inganäs[1, 3]
[1] Biomolecular and Organic Electronics, IFM, Linköping University, SE-581 83 Linköping, Sweden
[2] Department of Chemical and Biological Engineering, Polymer Technology, Chalmers University of Technology, SE-412 96 Göteborg, Sweden
[3] Center of Organic Electronics, Linköping University
[4] Institute for Materials Chemistry and Engineering, Kyushu University, 6-1 Kasuga Koen, Kasuga, Fukuoka 816-8580, Japan
- ^{iv} Materials Science and Engineering: A, Volume 430, Issues 1-2, pages 332-340, 2006
Nanoindentation and nanomachining characteristics of gold and platinum thin films
Te-Hua Fang[1], Win-Jin Chang[2], Cheng-I Weng[2]
[1] Institute of Mechanical and Electromechanical Engineering, National Formosa University, Yunlin 632, Taiwan
[2] Department of Mechanical Engineering, Kun Shan University, Tainan 710, Taiwan
- ^v Macromolecules, Volume 40, Issue 10, pages 3568-3574, 2007
Novel organosoluble poly (pyridine-imide) with pendent pyrene group: Synthesis, thermal, optical, electrochemical, electrochromic, and protonation characterization
Der-Jang Liaw[1], Kun-Li Wang[2], and Feng-Chyuan Chang[1]
[1] Department of Chemical Engineering, National Taiwan University of Science and Technology, Taipei, 106 Taiwan
[2] Department of Chemical Engineering and Biotechnology, National Taipei University of Technology, Taipei 106, Taiwan
- ^{vi} Chemical Physics, Volume 326, pages 641-646, 2006
State resolved rotational excitation cross sections and rates in H₂+H₂ collisions
Renat A. Sultanov[1], Dennis Guster[2]
[1] Business Computer Research Laboratory, St. Cloud State University, 2nd Floor, General Office Area, BB-252, 720 Fourth Avenue South, St Cloud, MN 56301-4498